

ルカ聖福音書序言

記者 第三福音書の記者ルカは、もと異教人で、聖パウロの書簡によると、初めは医を業としていたが、ついにパウロについて布教事業に従い、あるいは、その旅行に、あるいは、その前後二回の入獄に、常に伴ったと思われる。その後の事跡は不明であるが、彼がギリシアあるいはアジアに布教したことは、しばしば古伝に散見するところで、最後には殉教したものと信じられる。

宛名、目的および特色 本書は他の福音書と異なって、本書のうちに尊きテオフィロと書いている一個人に宛てられたものであるが、これは「神に愛される者」という意義のある名だから、仮の名をもつて一般の信者をさしたものとの説は、昔から一部の人々の説くところであるが、また実際にルカの一友人であつたかも知れない。いずれにせよ、異教より改宗して信者となつた人に宛てられたものであることは疑いない。けだし、記者はラビのような解しやすいヘブレオ語さえもことさらに避けて、これをギリシア語に訳し、ユデア人の通曉する地理的事実を解釈し、ユデア教の風俗などをかかげず、異教から改宗した信者に不快を感じさせるような事がらを載せないなど、これは、すべて彼らのためにしたことと証するものである。

その目的は、類本の、すでに少なくないキリストの伝記があるのを、更に詳しく、また順序的に叙述して、ひたすら読者の信仰を固めようとするところにある。

本書の特色は、その世界的なところにある。すなわち、いかなる人も罪人も、イエズス・キリストにおける信仰をもつて救いを得べきことを示し、殊に姦婦の事件、慈善なるサマリア人、および放蕩息子のたとえ、改心した強盜の物語など、もっぱら人をして希望を持たせるのに効験のあるものが多い。なおまた、イエズスの身における人情をも描き、マリア、ザカリア、天使および老人シメオンの賛美歌をかかげるなど、特殊の趣味を帶びたところが多い。

区分 本書は、およそ年代の順序に従つてしたためられ、四編に分けられている。第一、イエズスの幼年および私生活（一と二章）、第二、ガリレアにおける布教（三章一節と九章五十節）、第三、イエズスのエルザレムへの最後の旅行（九章五十一節と十九章二十八節）、第四、イエズスのご受難およびご復活（十九章二十九節と一十四章）が、これである。なお詳細は、目次について見ること。

思想および言い方 古伝には、ルカが、もっぱらパウロについて学んだ由ゆを載せていたが、なおキリストのことを目撃した人について学んだことが、一章二節、三節によつて明らかである。しかし、とにかく本書の思想および言い方は、パウロのと似たところが多く、文章は、もっと巧みで、文法も正しく、かつ趣味に富めるふしが多い。

記述の年代 これは、およそ紀元六三年以前であろう。

ルカのイエズス・キリスト聖福音書

緒言

第一章 本書はテオフィロに宛てらる 1 われらのうちに成り立ちしことの物語を、初めより親しく目撃して教える役者たりし人々の、2 われらに言い伝えしどとく書き連ねんとて、多くの人すでに着手せるがゆえに、3 尊きテオフィロよ、われも、すべてのことを、最初より詳しく取り調べて順序よく汝に書き送るをよしと思えり。4 これ汝をして教えられし教えの確実なるを悟らしめんためなり。

第一編 キリストの幼年および私生活

第一項 キリスト降誕の予備

第一款 洗者ヨハネ誕生の次第

り。その妻はアアロンの末なる娘にて、名をエリザベトと言えり。⁶二人ながら神のみ前に正しき人にして、主のすべての禁令と規律とを、あやまちなく、ふみ行ないいたりしが、⁷エリザベトは石女なれば、彼らに子なくして、二人ともに年老いたりき。

⁶ 天使、ヨハネの誕生を告ぐ。⁸しかるにザカリア、その組の順によりて神のみ前に司祭の務めを行なひけるに、⁹司祭職の慣例に従いくじを引きて、主の殿に入り、香をたくことを得たり。¹⁰香をたく時にあたり、人民群集して、みな外にて祈りいけるに、¹¹主の使、香台の右に立ちてザカリアに現われしかば、¹²ザカリアこれを見て心騒ぎ、かつ恐ろしさに擊たれたり。¹³天使これに言ひけるは、恐ることなかれザカリア、けだし汝の祈り、聞き入れられたり。妻エリザベト、汝に一子を生まん、汝、その名をヨハネと名づくべし。¹⁴しかして汝には喜びに堪えざることとなり、多くの人もまた、その誕生によりて喜ばん。¹⁵すなわち、彼は主のみ前に偉大にして、ぶどう酒と酔う物とを飲まず、母の胎内より、すでに聖靈に満たされん。¹⁶またイスラエルの多くの子を、主たるその神に帰らしめ、¹⁷エリアの精神と能力とをもつて主の先に行かん、これ主のために完全なる人民を備えんとて先祖の心を子孫に立ち帰らせ、不信者を義人の知識に立ち帰らせんためなり、と。¹⁸ザカリア、天使に言ひけるは、われ何によりてか、このことあるを知るべき。けだし、われは老人にして、妻もまた年老いたればなり。¹⁹天使、答えて言ひけるは、われは神のみ前に立つガブリエルにして、わが遣わされたるは、汝に語りて、これらの福音を告げんためなり。²⁰見よ、時期至りて成就すべき、わが言葉を信せざりしにより、汝はおしとなりて、このことのなる日まで、もの言うことあたわじ、と。

その結果 21 人民はザカリアを待ちつゝ、その殿内にとどこおるを怪しみたりしが、22 出するに及びて、もの言うあたわざれば、人々、彼が殿内にて幻を見しことを悟れり。彼は手まねするのみにて、おしはそのままなりしが、23 ついに、その務めの日数^{ひかず}満ちて、おのが家に帰りしに、24 日ならずして妻エリザベト懷胎せしかば、隠ること五カ月にして、25 言えらく、主は人々の間に、わが恥をすすがしめんとて、われを顧み給いたる日に、かくも、われになし給いしなり、と。

第二款 マリア、天使の告げをこうむる

マリアへのお告げ 26さて六月目にあたり、天使ガブリエル、ガリレアのナザレトと言える町に、27ダヴィード家のヨゼフと名づくる人の許^{いき}婚^{なまけ}せし童貞女に遣わされしが、その童貞女、名をマリアと言えり。28天使、彼のもとに入り来りて言いけるは、めでたし、恩寵に満てる者よ、主、汝とともにまします。汝は女のうちにて祝せられたる者なり、と。29マリアこれを見て、その言葉によりて大いに心騒^{さわ}ぎ、この祝詞は、いかなるものぞ、と案じおるを、30天使、言いけるは、恐ることなかれマリア、汝、神のみ前に恩寵を得たればなり、31さて汝、懷胎して一子を生まん、その名をイエズスと名づくべし。32彼は偉大にして、いと高き者の子となえられん。また主なる神、これにその父ダヴィード⁴の玉座⁵を賜いて、33ヤコブ⁶の家を、限りなく治め、その治世は終わりなかるべし、と。34マリア、天使に言いけるは、われ夫を知らざるに、いかにしてか、このことあるべき。35天使、答えていわく、聖靈、汝にのぞみ給い、いと高き者の能力の陰、汝を

おおわん、ゆえに汝より生まるべき聖なるものは神の子ととなえらるべし。36 それ汝の親族エリザベトすら老年ながら一子を懷胎せり、かくて石女^{うきずめ}と呼ばれたる者、今すでに六月目なり。37 けだし何ごとも神にはあたわざるところあらじ、と。38 マリア言いけるは、われは主の御召使なり、汝の言葉のごとく、われになれかし、と。ここにおいて天使、彼を去れり。

第三款 マリア、エリザベトを訪問す

マリア、エリザベトを訪問す 39 日ならずしてマリア立ちて山地^{やまじ}なるユダの町に急ぎ行きしが、40 ザカリアの家に入りてエリザベトに挨拶せしに、41 エリザベト、マリアの挨拶を聞くや、その子は胎内にておどり、エリザベトは聖靈に満たされ、42 声高く呼ばわりて言いけるは、汝は女の子たじけのうしたるぞ。43 そもそも汝が挨拶の声わが耳に響くや、子、喜びて、わが胎内におどれり。45 幸いなるかな、信ぜし者。これ主より言われしこと必ず成就すべければなり、と。

マリアの贊美歌 46 マリア言いけるは、わが魂⁸、主をあがめ奉り、47 わが精神⁸、わが救い主なる神によりて喜びに堪えず、48 そは、その御召使の卑しきを顧み給いたればなり。けだし今より万代^{よろづよ}までも、人われを幸いなる者ととなえん、49 全能にてまします者、われに大事をなし給いたればなり。聖なるかな、そのみ名。50 そのあわれみは世々これを恐るる人々の上にあり。51 自ら御腕の権能を表わし、おのが心の思いにおござれる人々を打ち散らし、52 権力ある者を、その座よりお

ろし、卑しき者をば高め、⁵³ 飢えたる者を良きものに飽かせ、富める者をば手を空むなしゅうして去らしめ給えり。⁵⁴ 御あわれみを忘れず、そのしもベイスラエルを引き受け給い、⁵⁵ われらの先祖にのたまいしごとく、アブラハムにも、その子孫にも、世々に限りなく及ぼし給わん、と。⁵⁶ かくて、マリア、エリザベトとともに留まること、およそ三月にして、おのが家に帰れり。

ヨハネの誕生 ⁵⁷さてエリザベト、産期満ちて男子を生みしが、⁵⁸隣人、親戚ら、主のこれに大いなる恵みを賜いしことを聞きて祝賀したり。⁵⁹八日目に至り、人々その子に割礼⁹をほどこさんとて來り、父の名によりてザカリアと名づけんとせしに、⁶⁰母、答えて、しかるべからず、ヨハネと名づくべし、と言いしかば、⁶¹人々、汝の親戚のうちに、この名をつけられたる者なしとて、⁶²父に手まねして、何と名づけんと欲するぞ、と問いけるに、⁶³ザカリア、書板かきいたを求めて、その名はヨハネなり、とするしたれば、みな感嘆したりしが、⁶⁴やがてザカリアの口開け、舌解したけ、⁶⁵もの言いて神を祝せり。⁶⁵かくて隣人みな恐れをいだき、このすべてのことユデアの山里に、あまねく言い広められしかば、⁶⁶聞く人々、これを記憶に留めて、この子はいかなる者にならんと思うか、と言い合えり、けだし主のみ手、彼とともにありき。

ザカリアの贊美歌 ⁶⁷かくて、その父ザカリア、聖靈に満たされ、予言して言いけるは、⁶⁸祝すべきかな、主なるイスラエルの神。¹⁰ そは自らのぞみて、その民の贖いをなし、⁶⁹そのしもベダヴィードの家において、救いのつのを、われらのために起こし給いたればなり。⁷⁰これ、いにしえより聖なる予言者らの口によりて語り給いしごとく、⁷¹われらの敵より、また、すべてわれらを憎む者の手より、われらを救い給い、⁷²われらの先祖にあわれみをたれて、その聖約を記憶し給わ

んためなり。73 しかして、これわれらに賜わんと、わが父アブラハムに誓い給いし誓なり。74 されば、われらの敵の手より救われて、恐れなく主に仕えまつり、75 聖と義とにおいて、生涯、主のみ前にはべらん。76 幼子よ、汝は、いと高きものの予言者となえられん。そは主の面前に先立ちて、その道を備え、77 その民に罪を許さるべき救靈^{ナカニ}の知識を与うべければなり。これ、わが神の慈悲の腹わたによれり。78 これがために朝日は上より、われらにのぞみ給いて、79 暗闇^{クルヤミ}および死の陰に坐せる人々を照らし、われらの足を平安の道に導かんとし給う、と。
80 ヨハネの成長 80 かくて幼子成長し、精神いよいよ健やかにして、イスラエルに現わるる日まで荒野におれり。

① 司祭の組は十二あつた。② ラテン訳では聞きて。③ ラテン訳では心騒ぎ。④ 先祖の意。⑤ ラテン訳では座。⑥ ますヤコブの子孫、次にこれに象られたキリスト教会。⑦ ラテン訳では信せし汝。⑧ わが魂、わが精神、ともに「われ」の意である。⑨ 創世記17・11、レビ記12・3 ⑩ 力ある救い主の形容。⑪ キリストの意。⑫ キリストの形容。

第一項 イエズス、キリストのご降誕



1 じ誕生の事がら 1 そのころ天下の戸籍^{こせき}を取り調べしとの詔^{みことのり}、セザル・オグスト^{*}より
3-2 出でしが、2 この戸籍調べは、シリノがシリアの総督たりし時に始めたるものなり。3 かくて人
4 みな名を届けんとて、おのおのその故郷に至りけるに、4 ヨゼフもダヴィド家に属し、かつその
5 血すじなれば、5 すでに懷胎せる許婚^{いいなき}の妻マリアとともに名を届けんとて、ガリレアのナザレト
6 町よりユデアのベトレヘムと言えるダヴィドの町にのぼれり。6 そこにおりしほどに、マリア産

7 期満ちて、⁷ 初子^{ういと}¹を生み、布に包みて馬ぶねにふさせおきたり。これ旅^{はたご}²小屋^{こや}²に彼らのおる所なかりしゆえなり。

8 牧者どもへの天使の告げ 8 しかるに、この地方に牧者らありて、夜中交代して、おのが群を守りおりしが、⁹ おりしも主の使、そのかたわらに立ちて、神の栄光、彼らをめぐり照らしたれば、彼ら大いに恐れたり。¹⁰ 天使、彼らに言ひけるは、恐ることなけれ、そは、われ人民一般に及ぶべき大いなる喜びの福音を汝らに告ぐればなり。¹¹ けだし今日、ダヴィドの町において、汝らのために救い主生まれ給えり、これ主たるキリストなり。¹² 汝ら、これをもつて印とせよ、すなわち布にて包まれ、馬ぶねに置かれたる嬰兒^{みどりご}を見るべし、と。¹³ たちまち、おびただしき天軍、天使に加わりて神を賛美し、¹⁴ 「いと高き所には神に光榮、地にはご好意の人々に平安」³ と唱えたり。

9 牧者どもの参拝 15 天使たち天に去りてのち、牧者ら言ひけるは、いざ、われらベトレヘムまで行き、主のわれらに示し給えることの次第を見ん、と。¹⁶ すなわち急ぎ至りて、マリアとヨゼフと馬ぶねに置かれたる幼子^{おさなこ}とに会えり。¹⁷さて、まのあたりに見て、この幼子につきて言われしことを知らせければ、¹⁸ 聞ける人みな牧者らより言われしことを不思議に思いしが、¹⁹ マリアは、これらのことを、ことごとく心に収めて考え合わせいたり。²⁰ かくて牧者らは、おのれに言われしにたがわず、見聞きせしいつさいのことにつきて神に光榮を帰し、かつ賛美しつつ帰れり。
イエズスの割礼 21 幼子の割礼を授かるべき八日目に至りて、いまだ胎内に宿らざる前に天使より言われしごとく、名をイエズスと呼ばれ給えり。⁷

第三項 キリストの幼年

マリアの清め 22さてモイゼの律法のままに、マリアが清めの日^ひ数^{かず}満ちてのち、〔両親^{ふたおや}〕^{おさなご}幼子^{おさなこ}を主に献げんため携えてエルザレムに行けり。23これ主の律法に書きしるして「すべて初めに生まるる男子は主のために聖なる者ととなえらるべし」とあるがゆえにして、24また主の律法に言われたるごとく、山鳩一つがいか、鳩のひな二羽^{いのへ}かを犠牲^{いけにえ}に献げんためなりき。

老人シメオン 25おりしもエルザレムにシメオンと言える人あり。義人^{ぎじん}にして神を畏敬^{いせん}し、イスラエル「の民」の慰められんことを待ちて聖靈の居給う所となり、26聖靈より、主のキリストを見ざるうちは死せざることを示されたりしが、27〔聖〕靈によりて〔神〕殿に至りしに、あたかも、かの両親^{ふたおや}、幼子イエズスを携え、これがために律法の慣例^{ならわし}に従いて行なわんとて来りければ、28シメオン、幼子を抱き、神を祝して言いけるは、

シメオンの贊美歌 29主よ、今こそ、み言葉に従いてしもべを安樂に行かしめ給うなれ、30そは、わが目、主の救いを見たればなり。31これぞ主が万民の前に備え給いし者にして、32異邦人^{ほかのう}を照らすべき光、主の民たるイスラエルの誉^{ほまれ}なる、と。

シメオンの予言 33イエズスの父母^{おやぢ}は、幼子につきて言われたることを驚嘆^{ひづく}したりしが、34シメオン、彼らを祝して母マリアに言ひけるは、この子は、これイスラエルにおいて、多くの人の¹¹堕落と復活とのためにおかれ、かつ逆らいを受くる印に立てられたり、35汝の魂も剣にて刺し貫

かるべく、しかして多くの心の思い現わるべし、と。¹²

老女アンナ ³⁶ またアゼル族なるファヌエルの娘に、名はアンナ「³⁷ と書いて」、すでに至極の老年に及べる女予言者あり。乙女の時より七年の間、夫とともにありしに、³⁷ 寡婦となりて齡八十四に至り、「神」殿を離れず、断食と祈祷とをもって昼夜奉事13 しおりしが、³⁸ これも同時に來りて主を賞賛し、エルザレムにおいて、贖いを待てる人々に幼子のことを語りいたりき。

ナザレトに住み給う ³⁹ 「⁴⁰ 両親は」、主の律法のままに何ごとも果たし、ガリレアのナザレ

トなる、おのが町に帰りしが、⁴⁰ 幼子ようやく成長して知恵に満ち、精神の力いや増し給い、神の恩寵、その上にありき。

学者の間におけるイエズス ⁴¹さて過ぎ越し*の大祝日には、両親、年ごとにエルザレムに行きおりしが、⁴² イエズス十二歳になり給いし時、両親、祝日の慣例のままにエルザレムにのぼりしに、⁴³ 祝日過ぎて帰る時、幼きイエズスはエルザレムに留まり給えり。⁴⁴ 両親はこれを知らず、⁴⁴ 道づれのうちにあらんと思いつつ、一日路じを行き、さて親族、知己ちきのうちを求めたれども会わざりしかば、⁴⁵ 尋ねつつエルザレムに立ち帰りしに、⁴⁶ 三日目に、¹⁵ イエズスが「神」殿にて学者の中に坐し、彼らに聞き、かつ問いい給えるを見つけたり。⁴⁷ 聞く人みな、その知恵と答えたに驚きいたりしが、⁴⁸ 両親は、これを見て感嘆せり。かくて母はイエズスに向かい、子よ、何ゆえ、わかれらに、かかるとをなししそ、見よ、汝の父と、われとは憂いつつ汝を尋ねいたり、と言ひければ、⁴⁹ イエズスのたまいけるは、何ぞ、われを尋ねたるや。われは、わが父のことを務むべきを知らざりしか、と。⁵⁰ 両親は、この語り給いし言葉を悟らざりき。

三十才までの生活 51さてイエズス彼らとともにくだり、ナザレトに至りて彼らに従いい給い
しが、母は、このすべてのことを心に収めいたりき。52かくてイエズス、知恵も齡も、神と人と
における寵愛^{ちようあい}も次第にいや増しい給えり。

①マテオ1・25の註を見よ。②共同宿が職員で。③あるいは「いと高き所には神に光榮、地には平安、人々には厚意」、ただし「厚意」とは神のご厚意を言い、「ご好意の人々」とは神のご好意にかなえる人を言う。④原文では語。⑤ラテン訳では、まのあたりに見て、この幼子につきて、おのれに言われし言葉を認めたり。⑥創世記17・12、レビ記12・3 ⑦本書1・31 ⑧レビ記12・1～8 ⑨出エジプト記13・2、12、13、民数紀略3・13、8・16、17 ⑩レビ記12・6、8 ⑪ラテン訳では受くべき。⑫大心痛の形容。⑬あるいはエルザレムの。ラテン訳ではイスラエルの贋い。⑭あるいは、いよいよ健やかにして。⑮ラテン訳では「三日ミツヒのうち」とは三日間の意。⑯あるいは、わが父の家におるべきを。

第二編 キリストの公生活

第一項 キリスト布教の予備

第一款 洗者ヨハネの先駆

第二章

1

時代 1 チベリオ・セザル在位^{*}の十五年、ポンシオ・ピラトはユダヤの総督たり、ヘロデ*

はガリレア分国の王たり、その兄弟フィリップはイチュレアおよびトラコニト地方分国の王たり、
リサニアはアビリナ分国の王たり、2アンナとカイファとが司祭長たりし時、

4-3

ヨハネの宣教（マルコ3・1～5） ザカリアの子ヨハネ、荒野にありて主の御言葉をこうむり、
 3 ヨルダン「川」の全地方を巡りて、罪の許しを得させんために改心の洗礼を述べ伝えたり。4
 予言者イザヤの言葉の書に書きしるして、「荒野に呼ばわる者の声ありていわく、汝ら主の道を
 備え、その小道を直くせよ。5 すべての谷は埋められ、すべての山丘はならされ、曲がれるは
 直くせられ、険しき所は平らなる道となり、6 人々みな神の救いを見ん」とあるにたがわす。

その教訓（マテオ3・4～10） 7さてヨハネ、おのれに洗せられんとて出で来れる群衆に言ひけるは、
 まむしの末よ、来るべき怒りをのがることを、たれか汝らに教えしそ。8 されば改心の相當な
 る実を結べよ。また、われらの父にアブラハムありと言わんとすることなかれ。けだし、われ汝
 らに告ぐ、神は、これらの石よりアブラハムのために子どもを起こすことを得給う。9 すでにお
 の木の根に置かれたり。ゆえに、すべて良き実を結ばざる木は切られて火に投げ入れらるべし、
 二枚の肌着を持てる人は持たぬ人に与えよ、食物を持てる人も同じようにせよ、といひたり。
 10 群衆、ヨハネに聞いて、しかば、われら何をなすべきぞ、と言ひければ、11 彼、答えて、
 12 また税吏（みつぎとり）ありて洗せられんとて來り、師よ、われら何をなすべきぞ、といひしかば、13 ヨハネ
 彼らに向かい、汝らは定まりたるもののはか、何をも取ることなかれ、と言えり。14 兵卒もまた、
 これに聞いて、われらは何をなすべきぞ、と言えば、ヨハネ彼らに向かい、汝らは、たれをも悩
 ますことなかれ、またざん訴（そ）することなかれ、おのが給料をもって足れりとせよ、と言えり。

キリストを証明す（マルコ3・11～12） 15 人民は待ちわびて、ヨハネをあるいはキリストならん
 と、みな心に推しありつけば、16 ヨハネ答えて人々に言ひけるは、げに、われは水に

て汝らを洗す、されど、われにまさりて力ある者、まさに来らんとす、われは、そのはきもの
 ひもを解くにも足らず、彼は聖靈と火とにて汝らを洗し給うべし。¹⁷ 彼の手に箕スありて、その打
 ち場を清め、麦は倉に納め、穀は消えざる火にて焼き給うべし、と。¹⁸ ヨハネなお多くのことを
 人に教えて福音を述べいたり。

ヨハネの入獄 ¹⁹ されど分国⁵の王ヘロデ*、その兄弟⁵の妻ヘロディアデのことにつき、また自ら
 なせる、すべての悪事につきてヨハネにいさめられければ、²⁰ もろもろの悪事に今一つを加えて、
 ヨハネを監獄に閉じ込めたりき。

第二款 イエズス自身の予備

イエズス、洗せられ給う (^{マテオ3:13}_{マルコ1:9}) ²¹ 人民こぞりて洗せらるる時、イエズスも洗せら
 れて祈り給うに、天開け、²² 聖靈、形に現われて、鳩のごとくイエズスの上にくだり給い、また
 天より声して、汝は、わが愛子なり、われ汝によりて心を安んぜり、とのたまえり。

イエズスの系図 (^{マテオ1:17}) ²³ イエズス、²⁴ ゼフの子と思われい給いしが、ヨゼフの父はヘリ、その父はマタト、²⁵ その父はレヴィ、その父
 はメルキ、その父はヤンネ、その父はヨゼフ、²⁶ その父はマハト、その父はマタチア、その父はセ
 ナホム、その父はヘスリ、その父はナッゲ、²⁶ その父はマハト、その父はマタチア、その父はセ
 メイ、その父はヨゼフ、その父はユダ、²⁷ その父はヨハンナ、その父はレサ、その父はゾロバベ

ル、その父はサラチエル、その父はネリ、²⁸ その父はメルキ、その父はアッジ、その父はコサン、²⁹ その父はエルマダン、その父はヘル、²⁹ その父はイエズ、その父はエリエゼル、その父はヨリム、³⁰ その父はマタト、その父はレヴィ、³⁰ その父はシメオン、その父はユダ、その父はヨゼフ、³¹ その父はヨナ、その父はマタト、³¹ その父はエリヤキム、³¹ その父はメレア、³² その父はメンナ、³² その父はマタタ、³² その父はナタン、³² その父はダヴィド、³² その父はイエッセ、³³ その父はオベド、³³ その父はボオズ、³³ その父はサルモン、³³ その父はナッシュン、³³ その父はアミナダブ、³⁴ その父はアラム、³⁴ その父はエスロン、³⁴ その父はファレス、³⁴ その父はユダ、³⁵ その父はヤコブ、³⁵ その父はナコル、³⁵ その父はサルグ、³⁶ その父はイザアク、³⁶ その父はアブラハム、³⁶ その父はヘベル、³⁶ その父はサレ、³⁷ その父はカイナン、³⁷ その父はアルファクサド、³⁷ その父はセム、³⁷ その父はノエ、³⁷ その父はラメク、³⁷ その父はマチュサレ、³⁸ その父はエノク、³⁸ その父はヤレド、³⁸ その父はマラレエル、³⁸ その父はカイナン、³⁸ その父はヘノス、³⁸ その父はセト、³⁸ その父はアダム、³⁸ その父は神なり。

^① ラテン訳では悔悛。^② 原文には、すべての肉身。^③ イザヤ40・3～5 ^④ ラテン訳では悔悛。^⑤ 名はフィリップ。

第四章 イエズスの断食（マルコ1・12～13・2）

1 イエズス、聖靈に満ちてヨルダン〔川〕より帰り、¹ 聖靈によりて荒野に導かれ、² 四十日の間〔留まりて〕、悪魔に試みられい給いしが、この間、何をも食し給わず、³ 日数満ちて飢え給えり。

3 悪魔に試みられ給う（マテオ4・11） ³ 悪魔、イエズスに向かい、汝もし神の子ならば、この石に命じてパンとならしめよ、と言いかば、⁴ イエズス答え給いけるは、書きしるして「人の生く

るはパンのみによらず、また神のすべての言葉による¹とあり、と。5 悪魔これを高き山に携え
 行き、寸時に世界の国々を示して、6 言いけるは、われ、このあらゆる権力と国々の榮華^{えいか}とを汝
 に与えん。けだし、これらもの、われに任せられて、われは、わが好む者にこれを与う。7 ゆ
 えに汝もし、わが前に礼拝せば、これら、ことごとく汝のものとなるべし。8 イエズス答えての
 たまいけるは、書きしるして「汝の神たる主を拝し、これにのみ仕えよ」²とあり、と。9 悪魔ま
 たイエズスをエルザレムに携え、「神³」殿の頂に立たせて言いけるは、汝もし神の子ならば、こ
 こより身を投げよ、10 そは書きしるして「神、その使たちに命じて、汝を守らせ給い、11 汝の足の石
 に突き当たらざるよう、彼ら手にて汝を支えん」とあればなり。12 イエズス答え給いけるは、書
 きしるして「汝の神たる主を試むべからず」⁴とあり、と。13 すべての試み終わりて、悪魔、一時
 イエズスを離れたり。

第二項 イエズス、ガリレアに布教し給う

第一款 十二使徒選定以前の事実

14 イエズス、ガリレアに行き給う(マテオ⁴・¹²、マルコ¹・¹⁴、ヨハネ⁴・⁴³、⁴⁶)¹⁵ イエズス、「聖」靈の能力により
 てガリレアに帰り給いしに、その名声^{きよこゑ}、全地方に広まり、¹⁵所々の会堂にて教え給い、すべての

人があがめられ給いつつありき。

ナザレトにて教え給う。16さて、かつて育てられ給いしナザレトの地に至り、安息日^{あんきじ}にあたりて例のごとく会堂に入り、読まんとて立ち給いしに、17予言者イザヤの書を渡され、これを開きて次のごとく書きしるされたる所に見当たり給えり。18「主の靈、わが上にましませば、われに注油^{*}して遣わし給い、貧者に福音を述べしめ、心の碎けたる人をいやさしめ、19とりこには許しを、めしいには見ゆることを告げしめ、押さえられたる人を解きて自由ならしめ、主の喜ばしきを、年および報いの日を告げしめ給う⁵」と。20イエズス、書^{しょ}を巻きて役員に返し、さて坐し給いしかば、堂内の人、みなこれに注目したり。21イエズス、まず彼らに向かいて、この書は今日、彼らの耳に成就^{じょうじゅ}せり、と説き出だし給いしかば、22みな彼を證明し、その口より出ずる、うるわしき言葉に驚きて、これヨゼフの子にあらずや、と言ひければ、23イエズス彼らにのたまいけるは、汝ら必ずわれに、医者自らをいやせとの諺を引きて、汝がカファルナウムにてなせりと、わかれらの聞けるほどのことと、おのが故郷なることにもなせ、と言わん、と。24また、のたまひけるは、われ誠に汝らに告ぐ、予言者にして、その故郷に歓迎せらるる者はあらず。25われ誠に汝らに多くの寡婦^{やもめ}ありしかど、26エリアは、そのうちの一人にも遣わされず、ただシドンのサレプタの一人の寡婦^{やもめ}のみ遣わされたり、27また予言者エリゼオの時、イスラエルのうちに多くのらい病者ありしかど、シリア人ナアマンのほかは、そのうち一人も清くせられざりき⁷、と。28堂内の人々これを聞きて、みな怒りに堪えず、29立ちてイエズスを町より追い出だし、その町の立てる山の断崖^{きりがい}に連れ行き、投げ落とさんとせしかども、30イエズスは彼らの中を通りて歩みい給えり。

31 カファルナウムで教え給う（マルコ4・^{21 13}_{22 17}） 31 かくてガリレアの町なるカファルナウムにくだり、安息日ごとに教え給いけるに、32 その語り給うところ、権威を帶びたるにより、人々その教えに驚きいたり。

悪魔つきいやさる（マルコ1・²³₂₈）

33 ここに会堂の内に汚鬼おきにつかれたる人ありて、声高く叫びて
34 言いけるは、34 ナザレトのイエズスよ、われらをさしあけ、われらと汝と何のかかわりがあらん。
われらを滅ぼさんとて來り給えるか。われ汝のたれなるかを知れり、すなわち神の聖なる者なり、
35 と。35 イエズスこれを責めて、黙せよ、この人より出でよ、とのたまいしかば、悪鬼あきその人を真まん_{なか}中に投げ倒し、少しも害を加えずして彼より出でたり。36 ここにおいて人々、大いに驚き恐れ、
36 こは何ごとぞ、彼、権威と能力とをもつて汚鬼らに命じ給えば、すなわち出づるよ、と語り合い、
37 イエズスの名声きこえ、かの地方、至る所に広まりゆきたり。

ペトロの傭じゅうとめいやさる（マルコ1・²⁹_{31 15}・¹⁴）

38 イエズス、会堂を立ち出でてシモンの家に入り給
いしに、シモンの姑、重き熱をわざらいおりしを、39 人々、彼のために願いければ、イエズスそ
のかたわらに立ちて熱に命じ給うや、熱去りて、彼ただちに起きて彼らに給仕したり。

多くの病人いやさる（マルコ1・³²₃₄・¹⁶・¹⁷）

40 日入りてのち、さまざまの患者を持つ人々、み
なこれをイエズスのもとに連れ来りければ、いちいち握手あんじゅして、これをいやしい給えり。41 また
悪魔、多くの人より出でて叫びつつ、汝は神の子なり、と言ひければ、イエズスこれを戒めて、
もの言うことを許し給わざりき、けだし悪魔は、そのキリストたることを知ればなり。

42 人々の熱望 42 夜明けてのち、イエズス出でて寂しき所に行き給いしに、群衆尋ねて、そのも

43 とに至り、おのれらを離れざらしめんとて引き留めければ、43 イエズス彼らにのたまひけるは、われはまた、他の町にも神の国の福音を述べ伝えざるべからず、われは、これがために遣わされ44 たればなり、と。44 かくてガリレアの諸会堂にて説教しつつい給えり。

- ①申命記8・3 ②申命記6・13 ③詩編90・11、12 ④申命記6・16 ⑤イザヤ61・1、2 ⑥列王記略上17
⑦列王記略下5・14

第五章

1 イエズス、初めの弟子を召し給う（マルコ14・16 マテオ16・18 ヨハネ20・22） 1さて群衆、神のみ言葉を聞かんとて押し迫まりければ、イエズス、ゲネザレトの湖のほとりに立ち給えるに、2「一その舟の岸にかかるるを見給えり。漁師は、すでにおりて網を洗いおりしが、3イエズス、シモンの舟なる一そうに乗り、こいて少しく岸を離れしめ、坐して船中より群衆に教えい給いき。

4 奇跡的すなどり、4語り終え給いてシモンに向かい、冲おきに乗り出だし網をおろしてすなれ、5とのたまいしかば、5シモン答えて言ひけるは、師よ、われら夜もすがら働きて何をも得ざりき、6されど仰せによりて、われは網をくださん、とて、6そのごとくなしたるに、取り込めたる魚、7はなはだ多く、網まさに裂けんとしければ、7來り助けしめんとて他の舟なる仲間をさし招きし8かば、彼ら來りて一その舟に魚うおを満載まんざいし、ほとんど沈ふぶきまんばかりになれり。8シモン・ペトロこれを見てイエズスの足もとに平伏し、主よ、われは罪人なれば、われより遠ざかり給え、と言えり。9そは、彼も、ともにおる者もみな、すなどりたる魚のおびただしきに驚きたればなり。10シモンの友なるゼベデオの子ヤコボとヨハネとも、またそのうちにありき。かくてイエズス、シモンに向かい、恐ることなれ、汝、今より人をすなどる者とならん、とのたまいしかば、

11 彼ら舟を岸に寄せ、いつさいをさしおきてイエズスに従えり。

12 らい病者いやさる(マテオ8・1~4 マルコ1・40~45) 12 イエズス、ある町に居給える時、全身にらいを病める人ありて、イエズスを見るや、平伏して願い、主よ、おぼしめしならば、われを清くすることを得給う、と言いしに、13 イエズス、手をのべて、これに触れ給い、わが意なり、清くなれ、とのたもうや、らいただちに、その身を去れり。14 イエズスこれを、たれにも語らざるよう戒めて、さて「のたまいけるは」、ただし行きて、おのれを司祭に見せ、清くなりたるために、彼らへの証拠として、モイゼ*の命ぜしごとく獻げ物をなせ、と。

15 イエズスの名声(きこえ) 15 しかるにイエズスの名声ますます広がりて、群衆おびただしくこれに聞き、かつ病をいやされんとて、つどい来りければ、16 荒野(あらの)に避けて祈りい給えり。

17 中風者いやさる(マテオ9・1~8 マルコ2・1~12) 17 一日イエズス坐して教え給いけるに、ガリレア、ユダヤのすべての村落(そんらく)およびエルザレムより來りしファリザイ人*、律法學士*らも坐したりしが、主の能力、人をやすために現われつつありき。18 おりしも人々、中風を病める人を床(き)にて、かき來り、内に入れてイエズスの前に置かんと努めれども、19 群衆のために入るべき道を得ず、屋根にのぼり、かわらをはぎて、その人を床(き)のままイエズスの前に、真中(まんなか)につりおろせり。20 イエズス彼らの信仰を見て、人よ、汝の罪許さる、とのたまいしかば、21 律法學士、ファリザイ人ら考へ始めて言いけるは、この冒瀆の言葉を出だすはたれぞ。神ひとりのほか、たれか罪を許すことを得んや、と。22 イエズス彼らの思うところを知り、答えてのたまいけるは、汝ら心に何を考うるぞ。汝の罪許さると言うと、起きて歩めと言うと、いづれかやすき。24 さて人の子*、地において罪

を許すの権あることを汝らに知らしめん、とて中風の人に向かい、われ汝に命ず、起きよ、床を取りて、おのが家に帰れ、とのたまいしかば、²⁵その人ただちに彼らの前に起き上がり、おのがふしいたりし床を取りて、神に光榮を帰しつつ家に帰りしが、²⁶人々驚き入りて、神に光榮を帰し、また恐れかしこみて、われら今日、誠に不思議なることを見たり、と言いいたり。

マテオ召さる(マテオ9・9
ルコ2・13
マ)¹³ ¹⁷) ²⁷そののちイエズス出でて、レヴィと名づくる税吏が収税署に坐せるを見て、われに従え、とのたまいしかば、²⁸彼いつさいをさしおき、立ちて従えり。²⁹かくてレヴィ、自宅においてイエズスのために大いなる饗宴を設けしに、税吏など、おびただしく彼らと席を同じゅうしければ、³⁰ファリザイ人^{*}および、その徒輩^{ともがら}なる律法學士^{*}らつぶやきて、イエズスの弟子たちに向かい、汝らは何ゆえに税吏^{タツギトリ}、罪人^{つみひと}と飲食をともにするぞ、と言ひけるに、³¹イエズス答えてのたまひけるは、医者を要するは壯健なる人にあらずして病める人なり、³²わが來りしは義人を呼ぶためにあらず、罪人^{つみひと}を呼びて改心せしめんためなり、と。

ものいみの問題(マテオ9
ルコ2・18
マ)¹⁴ ²²) ³³彼らイエズスに言ひけるは、ヨハネの弟子らは、しばしば断食し、また祈祷し、ファリザイ人もまた、しかするに、汝の者どもは何ゆえに飲食するぞ、³⁴と。イエズス彼らのたまひけるは、汝ら、あに花婿^{はなむき}の友だちをして、その花婿とともにくる間に断食せしむるを得んや。³⁵されど花婿、彼らより奪わるる日来るべく、その日には断食すべし、と。³⁶イエズスまた彼らにたとえを語り給ひけるは、新しき衣服を裂き取りて、古き衣服にはぐ人はあらず、もし、しかする時は新しきものを破り、かつ新しき衣服より取れる布^{きぬ}は古きものに似合わず。³⁷また新しき酒を古き皮袋に盛る人はあらず、もし、しかせば、新しき酒は古き

38 皮袋を裂き、かつ流れ出でて皮袋もまたすたらん。38 新しき酒は新しき皮袋に盛るべく、さてこそ、二つながら保つなれ。39 また古き酒を飲みながら、ただちに新しき酒を望む人はあらず、たれも古きを、よしと言えばなり、と。

① ラテン訳では悔悛。



弟子たち安息日に麦穂を摘む（マテオ 12・1～8）

1 過ぎ越しの祭の一日前ののち、初

めの安息日にイエズス麦畑をよぎり給う時、弟子たち穂を摘み手にもみて食しければ、2 フアリザイのある人々、彼らに言ひけるは、何ぞ安息日になすべからざることをなせるや。3 イエズス答えてのたまひけるは、ダヴィードが、おのれおよび伴える人々の飢えし時なしことを汝ら読まざりしか。4 すなわち彼、神の家¹に入り司祭たちのほかは食すべからざる供えのパンを取りて食し、伴える人々にも与えしなり、と。5 また彼らにのたまひけるは、人の子^{*}はまた安息日の主²たるなり、と。6 手なえたる人、安息日にいやさる（マルコ 3・1～6¹³）6 また他の安息日にあたり、イエズス、7 会堂に入りて教え給えるに、右の手なえたる人そこにおりければ、7 律法學士、ファリザイ人ら、8 エズスを訴うるかどを見出ださんために、彼、安息日にいやすやと、うかがいおりしが、8 エズスその心を知りて、手なえたる人に、起きて真中に立て、とのたまひければ、彼、起きて立てり。9 イエズス彼らに向かい、われ汝らに問わん、安息日に許さるるは善をなすことか、悪をなすことか、生命²を救うことか、これを滅ぼすことか、とのたまひて、10 一同を見めぐらし給い、11 かの人に、手をのべよ、とのたまひしかば、彼のべて、その手いえたり。11 しかしに彼らが愚をきわめたるや、いかにしてイエズスを处分せんかと語り合ひいたり。

第二款 十二使徒選定後の事実

12 使徒選定せらる（マルコ3・13～15） 12 そのころイエズス祈らんとて山に登り、夜もすがら祈祷し
い給いしが、13 夜明けに至りて弟子たちを呼び、そのうちより十二人を選みて、更に、これを使
徒と名づけ給えり。

14 使徒の名（マテオ10・2～4、マルコ3） 14 すなわち、ペトロと名づけ給えるシモンと、その兄弟ア
ンデレア、ヤコボとヨハネ、フィリッポとバルトロメオ、15 マテオとトマ、アルフェオの子ヤコ
ボとゼロテと言えるシモン、16 ヤコボの兄弟ユダと謀叛人むほんにんとなりしイスカリオテのユダとなり。

17 おびただしき人いやさる（マルコ3・12～15、12・16） 17 イエズス、これらとともににくだりて、平らかな
所に立ち給いしが、弟子の一群いちぐんとともにまた、おびただしき群衆あり。これイエズスに聞き、
かつ病をいやされんとて、ユデアの全地方、エルザレムおよびチロとシドンとの湖辺うみべより来れる
ものなり。18 かくて汚鬼に悩まさるる人々いやされ、19 群衆みなイエズスに触れんと努めいたり、
そは力、彼の身より出でて、すべての人をいやせばなり。

20 幸いなる者は、たれぞ（マテオ5） 20 イエズス、弟子たちの方かたに目をあげてのたまひけるは、
幸いなるかな、汝ら貧しき人、そは神の国は汝らのものなればなり。21 幸いなるかな、汝ら今飢
うる人、そは飽かざるべければなり。幸いなるかな、汝ら今泣く人、そは笑うべければなり。22 幸いなるかな、汝ら人の子*のために憎まれ、遠ざけられ、ののしられ、その名は悪あしとして排斥

せらるる時、²³その日には喜びおどれ、そは汝らの報い、天において大いなればなり。すなわち彼らの先祖は予言者たちに、かくなしたりき。

²³ 罪いなる者は、たれぞ ²⁴しかれども汝ら富める人は罪いなるかな、そは今おのが慰めを有すればなり。²⁵汝ら飽き足れる人は罪いなるかな、そは飢うべければなり。汝ら今笑う人は罪いなるかな、そは嘆き、かつ泣くべければなり。²⁶汝ら人々に祝せらるる時は罪いなるかな、すなわち彼らの先祖は偽予言者どもに、かくなしたりき。

²⁷ 愛の規則（マテオ³⁸・⁴⁸） ²⁷されば、われ、聴聞する汝らに告ぐ、汝らの敵を愛し、汝らを憎む人を恵み、²⁸汝らを呪う人を祝し、汝らをざんする人のために祈れ、²⁹人、汝の頬^{ほお}を打たば、これに他の頬をも向けよ。また汝の上着を奪う人には、下着をも拒むことなかれ。³⁰すべて汝に求むる人に与えよ、また汝のものを奪う人より取りもどすことなかれ。³¹汝らが人にせられんと欲するところを、汝らも、そのままに人に行なえ、³²おのれを愛する人を愛すればとて、汝らに何の報いかあらん、けだし罪人もなお、おのれを愛する人を愛するなり。³³また汝らを惠む人を恵めばとて、汝らに何の報いかあらん、けだし罪人もなお、これをなすなり。³⁴また受くるところあらんことを期して人に貸せばとて、汝らに何の報いかあらん、けだし罪人もなお等しきものを受けんとて罪人に貸すなり。³⁵されど汝らは、おのが敵を愛し、また報いを望まずして貸し、かつ惠め、しからば汝らの報い大いにして、いと高きものの子たるべし、そは恩を知らざる者、悪しき者の上にも、仁慈にましませばなり。³⁶されば汝らもまた慈悲あること、汝らの父の慈悲にましますごとくなれ。

是非すべからず（マテオ）

37 人を是非することなかれ、さらば汝らも是非せられじ。人を罪

38 することなかれ、さらば汝らも罪せられじ。許せ、さらば汝らも許されん。39 与えよ、さらば汝
らも与えられん。すなわち計りをよくし、押し入れ、搾り入れ、あふるるまでにして汝らの懷に
入れられん。そは、おのが計りたるところの計りにて、おのれもまた計らるべければなり、と。
めしいのたどえ 39さてイエズス、たどえを彼らに語り給いけるは、めしいはめしいを導き得
40 るか、二人ながら穴に陥るにあらずや。40弟子は師にまさらず、たれにもあれ、おのが師のこと
くならば完全なるべし。⁴

41 まず、おのれを正すべし 41汝、何ぞ兄弟の目にちりを見つめて、おのが目にあるうつぱりを
42 省みざる、42また、おのが目のうつぱりを見ずして、いかでか兄弟に向かいて、兄弟よ、われを
して汝の目よりちりを除かしめよ、と言うを得んや。偽善者よ、まず、おのが目よりうつぱりを
43 除け、しかば目明らかにして兄弟の目よりちりを除くを得べし。43悪しき実を結ぶは良き木に
あらず、また良き実を結ぶは惡しき木にあらず、44すなわち木は、おののおのその実によりて知ら
る。茨よりいちじくを取らず、やぶいちごよりぶどうを取らざるなり。45良き人は、その心の良
き倉より良きものを出だし、惡しき人は惡しき倉より惡しきものを出だす。口に語るは心にあふ
れたるところより出づればなり。46汝ら、主よ、主よ、と呼びつつ、わが言うことを行なわざる
は何ぞや。47すべて、われに来りて、わが言葉を聞き、かつ行なう人の、たれに似たるかを汝ら
に示さん。⁶48すなわち彼は家を建つるに地を深く掘りて、礎^{いじゅく}を岩の上にすえたる人のごとし。洪水
起こりて、激流その家を突けども、これを動かすあたわず、そは岩の上に基^きしたればなり。49さ

れど聞きて行なわざる人は、礎なくして土の上に家を建てたる人のごとし、激流これを突けば、ただちに倒れて、その家のくずれ、はなはだし、と。

①旧約の幕屋。②原文には魂とある。マテオ18・25を見よ。③本書22・27、マテオ10・24、ヨハネ13・16。④原文には「たれにても全く、その師のごとくに修養せらるべき」とある。⑤マテオ7・18、12・33。⑥マテオ7・21、23、ロマ書2・13、ヤコボ書1・22。⑦マテオ7・24、27

第七章 百夫長のしもべいやさる（マテオ8・5~13）

1 イエズスそのすべての言葉を人民に説き聞かせ
 2 終わりてカファルナウムに入り給いしが、2ある百夫長、おのが重んぜるしもべの病みて死する
 3 ばかりなりければ、3イエズスのことを聞くや、ユデア人の長老らを遣わし、来りて、そのしも
 4 べをいやし給わんことをこわしめたり。4彼らイエズスのもとに至りて、せつに願い、かの人は、
 5 これをなし給うに堪えたる者なり、5そは、わが国民を愛し、われらのために自ら会堂を建てた
 6 ればなり、と言ひければ、6イエズス彼らとともにに行き給い、すでに、その家に遠からずなり給
 7 える時、百夫長、友だちを遣わして言わしめけるは、主よ、自らわづらわし給うことなかれ、そ
 8 は、われ不肖にして、主のわが屋根の下に入り給うに足らざればなり。7ゆえに、わが身もみ前
 9 に至るに堪えずと思えり。さりながら、ただ一言葉にて命じ給え、さらば、わがしもべいえん。
 10 8けだし、われも人の権下に立つ者ながら、部下に兵卒ありて、これに行けと言えば行き、彼に
 来れと言えば來り、また、わがしもべにこれをなせと言えばなすなり、と。9イエズスこれを聞
 きて感嘆し、従える群衆を顧みてのたまいけるは、われ誠に汝らに告ぐ、イスラエルのうちにて
 も、かほどの信仰に会いしことなし、と。10かくて遣わされし人々、家に帰りて見れば、病みた
 りししもべ、すでにいえたりき。

12 ナイムの寡婦やもめの子よみがえらせらる 11 そののちイエズス、ナイムと言える町に行き給うに、
 12 弟子たちも、おびただしき群衆もともに行きてありしが、12 町の門に近づき給う時、おりしも、
 かき出ださる死人あり。こは、その母のひとり子にて、母は寡婦やもめなり、町の人おびただしく、
 これに伴いいたり。13 主この寡婦やもめを見給うや、あわれを感じ給いて、泣くことなけれ、とのたま
 いつつ、14 近づきて棺かんに手を触れ給いしかば、かける人々立ち留まれり。15 イエズス、若者よ、
 われ汝に命ず、起きよ、とのたもうや、死したる者起き返りて、もの言い始めけるを、その母に
 与え給いしかば、16 人々みな恐れをいだき、光榮を神に帰して言ひけるは、大いなる予言者、わ
 れらのうちに起これり、神は、その民を顧み給えるなり、と。17 かくて、このうわき、ユデア一般お
 よび、すべてそのめぐりの地方に広まれり。

18 洗者ヨハネの使(マテオ 11) 18 ヨハネの弟子たち、このいっさいのことを、おのが師に告げし
 19 かば、19 ヨハネ、その弟子の二人を呼びて、来るべき者は汝なるか、あるいは、われらの待つ者
 20 は、なおほかにあるか、と書いて、イエズスに遣わしければ、20 彼ライエズスのもとに至りて言
 いけるは、洗者ヨハネ、われらを汝に遣わして、来るべき者は汝なるか、あるいは、われらの待
 つ者、なおほかにあるかと言う、と。21 当時、イエズスは多くの人を病と傷と悪鬼とよりいやし、
 22 かつ、多くのめしいに視力を与え給いしが、22 答えて使にのたまひけるは、汝ら見聞きせしこと
 を、行きてヨハネに告げよ、すなわちめしいは見え、足なえは歩み、らい病者は清くなり、耳し
 いは聞こえ、死者はよみがえり、貧者は福音を聞かせらる、23 すべて、われにつきてつまずかざ
 る人は幸いなり、と。

24 イエズス、ヨハネをほめ給う（マテオ11：7～15） 24 ヨハネの使、去りてのち、イエズス、ヨハネのこと

25 とを群衆に語り出で給いけるは、汝ら何を見んとて荒野に出でしそ、風に動かさるる葦か、25さらば何を見んとて出でしそ、柔らかき衣服を着たる人か、見よ、価高き衣服を着て楽しく暮す人

26 人は帝王の家にあり、26さらば何を見んとて出でしそ、予言者か、われ汝らに告ぐ、しかり予言

27 者よりもまされる者なり、27書きしるして「見よ、わが使を汝の面前に遣わさん、彼、汝に先立

28 ちて汝の道を備うべし」とあるは彼のことなり。28すなわち、われ汝らに告ぐ、女より生まれた

る者のうちに洗者ヨハネより大いなる予言者はあらず、されど神の国にて最も小さき人も彼より

29 大いなり。29彼に聞けるすべての人民、税吏^{みづぎとり}までもヨハネの洗礼を受けて神を正しとせり、30されどファリザイ人^{*}、律法學士^{*}らは彼に洗せられずして、おのれにおける神のみ旨を軽んぜり、と。

31 現代とがめらる（マテオ11：16～19） 31 主またのたまいけるは、されば、われ現代の人を、たれにかな

32 ぞらえん、彼らは、たれに似たるぞや、32あたかもわらべらが巷^{ちまた}に坐して語り合い、われら汝ら

のために笛吹きたれども汝ら踊らず、汝らのために嘆きたれども汝ら泣かざりき、と言えるに似

たり。33すなわち洗者ヨハネ來りてパンを食せず酒を飲まざれば、汝ら、彼は悪魔につかれたり、

34 と言い、34人の子^{*}來りて飲食すれば、彼は食をたしなみ酒を飲み税吏^{みづぎとり}と罪人^{つみびと}との友たり、と言う。

35 さりながら知恵は、そのすべての子に正しとせられたり、と。

36 罪女^{ざいじょ}、イエズスに香油^{こうゆ}を注ぐ 36 ここに一人のファリザイ人、イエズスに会食せんことをこい

37 ければ、そのファリザイ人の家に入りて食卓につき給いしが、37おりしもその町に罪人^{つみびと}なる一人の女ありて、イエズスがファリザイ人の家にて食卓につき給えるを聞くや、香油を盛りたる器を

38 持ち來り、38 イエズスの足もとにて、そのうしろに立ち、御足を次第に涙にてうるおし、おのが
 39 髪の毛にてこれを拭い、かつ御足に接吻し、かつ香油を注ぎければ、39 イエズスを招きたるファ
 リザイ人これを見て心のうちに言ひけるは、彼は、はたして予言者ならば、おのれに触るる女の、
 40 たれにして、いかなる人なるかを、よく知れるならん、かの女は罪人なるものを、と。40 イエズ
 ス答えて、シモンよ、われ汝に言うことあり、とのたまひければ、彼、師よ、仰せられよ、と言
 41 うに、41 「のたまいけるは」、ある債主さいしゅに二人の負債者ふさいしゃあり、一人は五百デナリオ、一人は五十
 42 デナリオの負債あるを、42 返すべき由よなれば、債主、二人をともに許せり、かくて債主を最も
 43 愛せん者はいざれなるぞ、と。43 シモン答えて、われ思うに、そは多くを許されたる者ならん、
 44 と言いしに、イエズス、汝よく判断せり、とのたまい、44 さて女を顧みてシモンにのたまひける
 は、この女を見るか、われ汝の家に入りしに、汝は、わが足の水を与えざりしを、この女は涙を
 45 もつて、わが足をうるおし、おのが髪の毛をもつて、これを拭えり。45 汝は、われに接吻せざり
 46 しに、この女は入り来りてより絶えず、わが足に接吻せり。46 汝は油をわが頭こうべに注がざりしに、
 47 この女は香油をわが足に注げり。47 このゆえに、われ汝に告ぐ、この女は多く愛したるがゆえに、
 48 多くの罪を許さるるなり、許さること少なし、と。48 かくて、かの女
 49 に向かい、汝の罪許さる、とのたまいしかば、49 食卓をともにせる人々、心のうちに言い出でけ
 50 るは、彼、何人なむびとなれば罪をも許すぞ、と。50 イエズス、女に向かいて、汝の信仰、汝を救えり、
 安んじて行け、とのたまえり。

① 奴隸。② およそ三十せんに当たる銀貨。

第八章 弟子を率いてガリレアを巡り給う 1 そののちイエズス、説教し、かつ神の国の福音を述べつつ町々村々を巡回し給いければ、十二使徒これに伴い、2 また、かつて悪鬼を追い払われ病をいやされたる数人の婦人、すなわち七つの惡魔の、その身より出でたるマグダレナと呼ばれるマリア、3 ヘロデの家令クサの妻ヨハンナおよびスザンナ、その他多くの婦人ありて、おのが財産をもつて彼らに供給しいたり。

種まきのたとえ（マルコ4：1～23） 4さて、おびただしき人、町々よりイエズスのもとに馳せ集まりければ、イエズス、たとえをもつて語り給いけるは、5種まく人、その種をまきに出でしが、まく時¹あるものは道ばたに落ちしかば、踏みつけられ、空の鳥これをついばめり。6あるものは石の上²に落ちしかば、茨ともに育ちて、これをおおいふさげり。7あるものは良き土に落ちしかば、生え出でたれど、うるおいなきによりて枯れたり。8あるものは茨^{いばら}の中に落ちしかば、茨ともに育ちて、これをおおいふさげり。8あるものは良き土に落ちしかば、生え出でて百倍の実を結べり、と。イエズスこのことをのたまひて、聞く耳を持てる人は聞け、と呼ばわりい給えり。

たとえの理由 9弟子たち、このたとえをいかにと問い合わせしに、10のたまひけるは、汝らは神の国の奥義を知ることを賜わりたれど、他の人はたとえをもつてせらる、こは彼らが見つつ見えず、聞きつつ悟らざらんためなり。11このたとえはかくのごとし、種は神の言葉なり、12道ばたのものは聞く人々にして、彼らの信じて救われざらんため、のちに惡魔來りて言葉をその心より奪うなり。13石の上のものは聞く時に喜びて言葉を受くれど、おのれに根なく、しばらく信じて、いざないの時には退く人々なり。14茨の中に落ちしは聞きたるのち、ゆくゆく世の心づかいと富と

15 快樂とにおおいふさがれて、實を結ばざる人々なり。15 しかるに良き士に落ちしは善良なる心にて、言葉を聞きてこれを保ち、忍耐をもつて實を結ぶ人々なり。

16 灯をおおうべからず（²⁶マテオ⁵・¹⁵₁₀・²¹₂₅） 16 たれも灯をともして器^{うつわ}をもつてこれをおい、あるいは寝台の下に置く者はあらず、入り来る者に明りを見せんために、これを燭台の上に置く。
 17 けだし秘して現われざるはなく、隠れてついに知れず公にならざるはなし。18 このゆえに汝ら聞き方に注意せよ。そは持てる人は、なお与えられ、持たぬ人は、その持てりと思うものをも奪わるべければなり、と。

19 イエズスの親族はたれ（^{マテオ}₁₂・³¹₄₆・³⁵₅₀） 19 さてイエズスの母、兄弟、会わんとて來りしかど、群衆のために近づくことあたわざりしかば、20 汝の母、兄弟、汝に会わんとて外に立てり、と告ぐる者ありしに、21 イエズス答えて人々にのたまいけるは、神の言葉を聞き、かつ行なう人、これわが母、兄弟なり、と。

22 嵐を静め給う（^{マルコ}₄・³⁵₂₃・⁴⁰₂₇） 22 一日イエズス、弟子たちとともに小舟に乗り給いしに、わ
 れら湖のかなたに渡らん、とのたまいて、やがて乗り出だせり。23 かくて渡る間にイエズス眠り給いしが、暴風^{うぶ}湖に吹きおろし來り、水、舟に満ちて危^{あやう}かりければ、24 弟子たち近づきて、師よ、われら滅ぶ、と言いつつイエズスを覺ましたるに、起きて風と荒波とを戒め給いしかば、波風^{なみかぜ}やみて風となれり。25 さて、汝らの信仰いざこにある、とのたまいかれば、彼ら、かつ恐れ、かつ感嘆して、これをたれと思うぞ、風も湖も命じ給えば、これに従うよ、と言い合えり。

26 ゲラサの悪魔つきをいやし給う（^{マルコ}₅・¹₂₀・³⁴） 26 またガリレアに向かえるゲラサ人の地方

27 に渡りて、²⁷ 上陸し給いしに、一人の人ありてこれを迎えたり。彼、惡魔につかれたること、す
 28 でに久しくして、衣服をも着ず、家にも住まず、墓にのみおりしが、²⁸ イエズスを見るや、み前
 に平伏し、声高く叫びて、いと高き神のみ子イエズスよ、われと汝と何のかかわりがあらん。願
 わくは、われを苦しむことなけれ、と言えり、²⁹ これイエズス、惡鬼に、この人より出でよ、
 と命じ給えばなり。けだし彼、惡鬼に捕えらることすでに久しく、鎖にて縛られ、足かせにて
 守らるるものなきを破り、惡魔に駆られて荒野に行きいたるなり。³⁰ イエズスこれに問いて、汝
 の名は何ぞ、とのたまいしに、彼、軍團³¹なり、と言えり、そは、これに入りたる惡魔多ければな
 り。³¹さてイエズスの命じて底なき淵に行かしめ給わざらんことをこいたりしが、³² そこに多く
 の豚の群、山にて草を食ひしかば、惡魔ども、その豚に入るを許されんことをこいけるに、イ
 エズスこれを許し給いければ、³³ 惡魔ども、その人より出でて豚に入り、その群あわただしく崖³⁴
 より湖³⁵に飛び入りて、おぼれ死せり。³⁴ 牧者ども、その成り行きを見るや逃げ行きて、町に村に
 吹聴³⁶せしかば、³⁵人々、事の様³⁷を見んとて出でしが、イエズスのもとに來り、かの惡魔の出でた
 りし人の、すでに衣服をまとい、心確かにしてイエズスの足もとに坐せるを見て恐れたり。³⁶ か
 くて見し人々もまた惡魔つきの救われし次第を、たれかれに告げしかば、³⁷ ゲラサ地方の人民こ
 ぞりて、おのれらより立ち去り給わんことをイエズスにこえり。これ大いに恐れたればなり。さ
 てイエズス、舟に乗りて帰り給いしに、³⁸ 惡魔の離れし男、伴わんことを願いしかど、イエズス
 これを去らしめてのたまひけるは、³⁹ おのが家に帰りて、神が、いかばかり大いなることを汝に
 なし給いしかを告げよ、と。かくて彼は、あまねく町を巡りて、イエズスのいかばかり大いなる

ことを、おのれになし給いしかを言い広めたり。

40 ヤイロの願い（マテオ9・¹⁸₂₁、マルコ5・²⁴₂₁） 40 イエズス、帰り給いしに、人々待ちたりければ、群衆に平伏して、おのが家に入り給わんことをこえり、42 そは、おのれに十二歳ばかりのひとり娘ありて、まさに死なんとすればなり。

41 血漏の女いやさる（マテオ9・¹⁹₂₂、マルコ5・²⁵₂₂） 41 イエズス、行き給う道にて群衆に押し迫られ給えるうちに、43 十二年来、血漏をわざらえる一人の女、かつて医者のために、ことごとくその財産を費やしたれども、たれの手にもいやされ得ざりしが、44 うしろより近づきてイエズスの衣服のふさに触れしかば、その出血たちまち止まれり。45 イエズス、われに触れし者はたれぞ、とのたまえび、みな否めるを、ペトロおよびこれに伴いたる人々言ひけるは、師よ、群衆押し迫りて汝をわざらわすに、なお、たれかわれに触れし、とのたもうか。46 イエズスのたまひけるは、われに触れし者あり、われ靈能のわが身より出でたるを覚ゆればなり、と。47 女その隠れざりしを見ておののきつつ、來りてイエズスの足もとに平伏し、その触れし理由と、ただちにいえたる次第とを公衆の前に明かしければ、48 イエズスこれにのたまひけるは、娘よ、汝の信仰、汝を救えり、安んじて行け、と。

49 ヤイロの娘をよみがえらせ給う（マテオ9・²³₂₆、マルコ5・³⁵₄₃） 49 言葉いまだ終わらざるに、人、会堂の司のもとに來り、汝の娘死せり、師をわざらわすことなかれ、といしに、50 イエズスこの言葉を聞きて娘の父に答え給いけるは、恐ることなけれ、ただ信せよ、さらば彼、助かるべし、と。

51 かくて、その家に至り給いて、ペトロ、ヤコボ、ヨハネおよび娘の父母のほか、ともに入るこ
とをたれにも許し給わず、52 人々みな娘のために泣き、かつ嘆きおれるを、泣くなかれ、娘は死し
たるにあらず、寝ねたるなり、とのたまいしに、53 人々は彼の死したるを知りて、これを、あざ
笑いいたり。54 しかるにイエズス、娘の手を取り呼ばわりて、娘、起きよ、とのたまえば、55 そ
の靈返りて、娘ただちに起きしかば、これに食物を与うることを命じ給えり。56 両親は、いたく
驚きしが、なりしことを、たれにも語るな、とイエズスこれを戒め給えり。

① 投げまきをして。② 石地に。③ 原文にはレギオとあつて六千人の軍隊を言う。

十二使徒の派遣およびその心得（マテオ10・5～11・1）

1 かくて十二使徒を呼び集めて、
2 もろもろの悪魔を追い、病をいやす能力と権利とを授け給い、2 神の国のこととを述べ、かつ病者
3 をいやすために遣わさんとして、3 のたまいけるは、汝ら道にありて何ものとも携うることなか
4 れ、杖、袋、パン、金、および二枚の下着を持つことなかれ。4 いすれの家に入るも、これに留
5 まりて、そこより出で去ることなかれ。5 すべて汝らを受けざる人あらば、その町を立ち去り、
6 彼らに対する証拠として、おのが足のちりまでも払え、と。6 かくて十二使徒、出立して村々を
巡回し、至る所に福音を述べ、病者をいやしたり。

7 ヘロデの当惑（マルコ14・1～2） 7 時に分国の王ヘロデ、イエズスによりて行なわるる、す
べてのこととを聞きて疑いまどえり。そは、ある人々はヨハネ死者のうちより復活したりと言ひ、
8 ある人々はエリア現われたりと言い、ある人々は、いにしえの予言者の一人復活したりと言え
ばなり。9 かくてヘロデ言ひけるは、ヨハネは、われすでに首切りしものを、かかることの聞こ

ゆるかの人は、たれなるぞ、とてイエズスを見んことを求めいたり。

ペッサイダに退き給う（マテオ¹⁴・¹³、¹⁴、マルコ⁶）¹⁰使徒たち帰りて、めんめんが行ないし、いつさいのことを告げければ、イエズス彼らを従えて、別にペッサイダ付近なる寂しき所に退き給いしに、¹¹群衆これを知りて、そのあとを慕いしかば、イエズスこれを受けて神の国のことを語り、治療を要する人をいやしい給えり。

初めてパンをふやし給う（マテオ¹⁴・¹⁵、マルコ⁶）¹²日すでに傾きしかば、十二〔使徒〕近づきて言ひけるは、われらはかかる寂しき所にあるなれば、群衆を解散してめぐりの村および田舎^{いなか}家に宿らせ、かつは食物^{しょくもつ}を求めしめ給え、と。¹³しかるにイエズス彼らに向かい、汝ら、これに食物を与えよ、とのたまひしかば、彼ら言ひけるは、われらに五つのパンと二つの魚とあるのみ。¹⁴あるいは行きて、このすべての群衆のために食物を買わんか、と。¹⁵さて居合わせたる男子五千人ばかりなりしが、イエズス、人々を五十人ずつ組々に坐せしめよ、と弟子たちにのたまひければ、¹⁶彼らそのごとくにして、ことごとく坐せしめたり。¹⁷イエズス五つのパンと二つの魚とを取り天を仰ぎてこれを祝し、裂きて弟子たちに分からし群衆の前に置かしめ給いしかば、¹⁸みな食して飽き足りしが、食^くい余したるもの拾いて、くず十二かござりき。

イエズスはたれ（マルコ⁸・¹³、²⁷、²⁰）¹⁹イエズス、一人祈りい給ひけるに、弟子たちもともにおりしが、問ひてのたまひけるは、群衆、われをたれと言うぞ、と。²⁰彼ら答えて言ひけるは、人あるいは洗者ヨハネなりと言い、あるいはエリアなりと言い、あるいは、いにしえの予言者の一人の復活したるなりと言う、と。

20 イエズス、おのが愛難を予言し給う（マテオ16・31 21
マルコ8・31 23） 20 イエズス彼らにのたまひけるは、汝
らは、われをたれと言うか、と。シモン・ペトロ答えて、神のキリストなり、と言いしかば、
21 イエズスキびしく彼らを戒め、たれにもこれを語らざるよう命じて、22 のたまひけるは、人の子^{*}
はさまざまに苦しめられ、かつ長老^{*}、司祭長^{*}、律法學士^{*}らに排斥せられ、さて殺され、しかして
はさまざまに苦しめられ、かつ長老^{*}、司祭長^{*}、律法學士^{*}らに排斥せられ、さて殺され、しかして
三日目に復活すべし、と。

21 イエズスのあとにつく条件（マルコ8・34 24
マテオ16・39 28） 23 また一同に向かいてのたまひけるは、人もし
わがあとに来らんと欲せば、おのれを捨て、日々おのが十字架を取りて、われに従うべし。24 そ
は、おのが生命²を救わんと欲する人はこれを失い、わがために生命を失う人はこれを救うべけれ
ばなり。25 すなわち人たとい全世界をもうくとも、もし、おのれを失い、おのれを害せば何の益
かあらん。26 けだし、われとわが言葉とを恥ずる人をば、人の子^{*}もまた、おのれと父と聖使たち
との威光をもつて来らん時、彼を恥ずべし。27 されど、われ誠に汝らに告ぐ、ここに立てる者の
うちに、神の国を見るまで死を味わわざらん人々あり、と。

28 イエズスの変容（マルコ17・1
マテオ17・1
12 13） 28 これらのみ言葉のうち八日ばかりを経て、イエズス、ペ
トロとヤコボとヨハネとを従え、祈らんとて山に登り給いしに、29 祈り給う間に御顔の形変わり、
衣服は白くなりて輝けり。30 おりしも二人の人ありて、イエズスとともに語りおりしが、これモ
イゼとエリアとして、31 威光を帶びて現われつゝ、イエズスが、まさにエルザレムにおいて遂
げんとし給う逝去^{せいきょ}のことを語りおれり。32 ペトロおよびともにおる人々、堪えずして眠りたりし
に、その覚むるや、イエズスの栄光と、ともに立てる二人とを見たり。33 さて、その二人イエズ

スを離れければ、ペトロ言うところを知らずしてイエズスに言ひけるは、「師よ、よいかな、われらがここにおること。われら三つのいほりを作り、一つは汝のため、一つはモイゼのため、一つはエリアのためにせん」と。34 かく語りおるほどに一群の雲起こりて彼らをおおいしかば、弟子たち雲に入る時、恐れをいだけり。35 かくて声、雲のうちより響きていわく、「これぞ、わが愛子なる、これに聞け」と。36 この声の響ける時、ただイエズス一人のみ見え給いしが、弟子たちは黙して、その見たりしことを、そのころ、たれにも語らざりき。

37 てんかん病者をいやし給う（マルコ9・13¹⁴、28²⁰） 37 翌日、彼ら山をくだる時、群衆おびただしく來り迎えしが、38 おりしも一人の人、群衆のうちより呼ばわりて言ひけるは、「師よ、こいねがわくは、わが子を顧み給え、そは、わがひとり子なるものを、39 あわれや悪鬼これにつけば、にわかに叫びて投げ倒し、かつあわふかせ、ひきつけさせ、碎くるばかりにして、ようやくに立ち去る。40 われ汝の弟子たちに、これを追い払うことをこいしかど、あたわざりき。41 イエズス答えてのたまいけるは、ああ信仰なき、よこしまの代なるかな、われ、いつまで汝らとともにおりて汝らを忍ばんや。その子をここに連れ来れ、と。42 かくて彼、近づきけるに、悪魔これを倒してひきつけさせしかば、43 イエズス汚鬼を叱り、子をいやして、その父に返し給えり。

44 おのが受難を再び予言し給う（マルコ9・29²¹、31²²） 44 ここにおいて人々みな神の大能に驚き、イエズスのなし給えるすべてのことを感嘆しければ、イエズス弟子たちに向かい、汝らこの言葉を耳に收めよ、けだし人の子は人々の手に渡さることあらん、とのたまいしが、45 彼らこの言葉を解せず、しかも彼らが悟らざらんために、これに対し隠されしかば、この言葉につきてイエズ

スに問うことを恐れいたり。

46 謙遜を教え給う（マルコ9章18節～32節、マテオ18章1節～5節）

46ここに、おのれらのいづれが最も大いなるか、との考え
47彼らのうちに起こりしかば、47イエズスその心におもんぱかるところを見抜き給い、一人の幼子おさなこを取
48取りて、おのがかたわらに立たせ、48彼らにのたまひけるは、たれにてもあれ、わが名のため
にこの幼子を受くる人は、われを受くるなり、またわれを受くる人は、われを遣わし給いしもの
を受くるなり、すなわち汝ら一同のうちににおいて最も小さき者は、これ最も大いなる者なり、と。
49 寛容を教え給う（マルコ37章9節～38章）
49ヨハネ答えて、師よ、汝の名をもつて悪魔を追い払う者あるを
50見しが、われらとともに従わざる者なればわれらこれを禁じたり、と言ひければ、50イエズスこれにのたまひけるは、禁ずることなけれ、汝らに反せざる人は汝らのためにする者なればなり、と。

第三編 イエズス、エルザレムへの最後の旅行

第一項 旅行の初めの事実

イエズスの決心 51イエズスがこの世より取られ給うべき日数満ちんとしければ、エルザレム
52に行くべく御顔を固め、52まず数人の使を遣わし給いしかば、彼ら行きてイエズスのために準備
せんとて、サマリアのある町に入りしかど、53イエズスの御顔エルザレムに向かえるによりて、
人々これを受けざりき。54さればヤコボとヨハネと二人の弟子これを見て、主よ、われら今、命

55 じて天より火をくだし、彼らを焼き滅ぼさしめばいかに、と言ひければ、⁵⁵イエズス、顧みて叱りてのたまひけるは、汝らはいかなる精神なるかを自ら知らざるなり、⁵⁶人の子の來りしは、魂を滅ぼさんためにあらず、これを救わんがためなり、と。かくて一同、他の村に行けり。

56 57 弟子となるべき資格（マテオ¹⁹・²²）⁵⁷一行、道を歩める時、ある人、イエズスに向かい、いすこにもあれ行き給う所にわれは従わん、と言いしかば、⁵⁸イエズスこれにのたまひけるは、^{きつね}狐は穴あり、空の鳥は巣あり、されど人の子は枕する所なし、と。⁵⁹しかるにまた一人に向かいて、われに従え、とのたまいしかば、彼、主よ、まず行きて父を葬ることをわれに許し給え、と言ひけるに、⁶⁰イエズスのたまひけるは、死人をして、その死人を葬らしめ、汝は行きて神の国を告げよ、と。⁶¹また一人が言ひけるは、主よ、われ汝に従わん、されどまずわが家にあるものを处置することを許し給え。⁶²イエズスのたまひけるは、手をすきにつけて、なおうしろを顧みる人は神の国に適せざる者なり、と。

①群衆が去って。②マテオ16・25を見よ。③ものを言つての意。④固く決心しての意。⑤あるいは家族に別れを告ぐる。

第七章 七十二弟子の派遣およびその心得 1 そののち主また別に七十二人を指名して、おのが至らんとする町々所々に、まず二人ずつ遣わさんとして、¹2 のたまひけるは、刈り入れは多けれども働く者は少なし、ゆえに働く者をその刈り入れに遣わさんことを、刈り入れの主に願え。³3 行け、わが汝らを遣わすは、小羊を狼の中に入るがごとし、⁴汝ら、財布、旅袋、はきものを携うることなけれ、途中にて、たれにも挨拶をなすことなけれ。⁵いすれの家に入るも、まずこの家に平安あれかし、と言え、⁶もしそこに平安の子あらば、汝らの祈る平安はその上に留まらん、

7 しからずば汝らの身に返らん。7 同じ家に留まりて、その内に有り合わするものを飲食せよ、こ
 8 れ働く者は、その報いを受くるに価すればなり。家より家に移ることなれ、8 またいすれの町
 9 に入るとも人々汝らを受けなば、汝らに供せらるるもの食し、9 そこにある病人をいやし、人
 10 人に向かいて、神の国は汝らに近づけり、と言え。10 いすれの町に入るとも人々汝らを受けずば、
 11 その巷ちまたに出でてかく言え、11 汝らの町にて、われらにつきしちりまでも、われらは汝らに向かい
 12 て払うぞ、さりながら神の国の近づきたるを知れ、と。12 われ汝らに告ぐ、かの日にはソドマ4は
 13 かの町よりも許さることあらん。13 罪いなるかな汝ヨロザイン、罪いなるかな汝ベッサイダ、
 そはもし汝らのうちに行なわれし奇跡、チロとシドンとのうちに行なわれしならば、彼らは早く
 14 改心して、荒き毛衣5をまといて灰に坐せしならん、14 されば審判6にあたりて、チロとシドンとは
 15 汝らよりも許さることあらん。15 またカファルナウムよ、汝も地獄にまで沈めらるべし、天に
 16 までも上げられたるものを。16 そもそも汝らに聞く人はわれに聞き、汝らを軽ん7ずる人はわれを
 軽んじ、われを軽んずる人は、われを遣わし給いしものを軽んずるなり、と。

七十二弟子帰る 17 かくて七十二人、喜びつつ帰り來り、主よ、汝の名によりて惡魔すらも、
 18 われらに歸服す、といしかば、18 イエズス彼らにのたまいけるは、われサタン*がいなずまのご
 19 とく天より落つるを見つたりき。19 見よ、われ汝らに、蛇、さそり、ならびに敵のいっさいの
 20 勢いを踏みにじるべき權能を授けたれば、汝らを害するものはあらじ、20 さりながら鬼神8の汝ら
 に服するを喜ぶことなれ、むしろ汝らの名の天に書きしるされたるを喜べ、と。

イエズスの感謝(マテオ25:11) 21 その時イエズス、聖靈によりて喜悦してのたまいけるは、天地

の主なる父よ、われ汝を賞賛す、そはこれらのこととを学者、知者に隠して小さき人々に表わし給いたればなり。しかり父よ、かくのごときはみ心にかないしゆえなり。²² いつさいのものは、わが父よりわれに賜わりたり、父のほかに子のたれなるかを知る者なし、と。²³ かくて弟子たちを顧みてのたまいけるは、わたらん者のほかに父のたれなるかを知る者なし、と。²⁴ 汝らの見るところを見る目は幸いなるかな。²⁴ けだし、われ汝らに告ぐ、多くの予言者および帝王は、汝らの見るところを見んと欲せしかど見ることを得ず、汝らの聞くところを聞かんと欲せしかど聞くことを得ざりき、と。

律法學士の問(マテオ)

(22・35)

²⁵ おりしも一人の律法學士立ち上がり、イエズスを試みんとして言いけるは、師よ、われ何をなしてか永遠の生命を得べき。²⁶ イエズスこれにのたまいけるは、律法に何と書きしるしたるぞ、汝、それを何と読むぞ、と。²⁷ 彼答えて、汝の心をつくし、魂をつくし、力をつくし、精神をつくして汝の神たる主を愛し、また汝の近き者をおのれのごとく愛すべし、²⁸ と言ひしに、²⁸ 汝の答正し、これを行なえ、しかば汝生くることを得ん、とのたまえり。

²⁹ 慈善なるサマリア人のたどえ²⁹ しかるに彼自ら弁ぜんと欲してイエズスに向かい、わが近き者とはたれぞ、といしかば、³⁰ イエズス答えて、ある人、エルザレムよりエリコにくだる時、強盜の手に陥りしが、彼らこれをはぎて傷を負わせ、半死半生にして捨て去れり。³¹ たまたま一人の司祭、同じ道をくだれるに、これを見て過ぎ行き、³² また一人のレビィ人も、その所に来合わせてこれを見しかど同じように過ぎ行けり。³³ しかるに一人のサマリア人、旅路をたどりつつ彼のかたわらに來りけるが、これを見てあわれをもよおし、³⁴ 近づきて油とぶどう酒とを注ぎ、

35 その傷をほうたいして、おのが馬に乗せ、宿に伴いて看護せり。35さて翌日、デナリオ銀貨一枚を取り出だして宿主に与え、この人を看護せよ、この上に費やしたらんところは、われ帰る時、汝に償うべし、と言えり。36この三人のうち、かの強盗の手に陥りたる人に近かりしと汝に見ゆる者はいざれぞ、とのたまいけるに、37律法學士、かの人にあわれみを加えたる者これなり、と言いしかば、イエズス、汝も行きて、かくのごとくせよ、とのたまえり。

38 マルタとマリア 38かくて、みな行きけるに、イエズスある村に入り給いしを、マルタと名づくる女、自宅にて接待せり。39かの女にマリアと名づくる姉妹ありて、これも主の足もとに坐して御言葉を聞きいたるに、40マルタはもてなしの忙わしさに取りまぎれたりしが、立ち留まりて言いけるは、主よ、わが姉妹の、われ一人を残して、もてなさしむるを意とし給わざるか、されば命じて、われを助けしめ給え、と。41主答えてのたまいけるは、マルタ、マルタ、汝はさまでのことにつきて思いわざらい心を騒がすれども、42必要なるはただ一つのみ、マリアは最良の部分を選めり、これを奪わるまじきなり、と。

①マルコ6・7 ②マテオ10・5~16、マルコ6・8~11 ③平安に適する人の意。④審判の日の意。⑤ラテン訳では悔い改めて。⑥悔い改めの印として。⑦およそ三十せんに当たる。

1 第六章 イエズス祈りを教え給う 1かくてイエズス、ある所にて祈り給えるに、その終わり給うや弟子の一人言いけるは、主よ、ヨハネもその弟子に教えしごとく、われらに祈ることを教え給え、と。2イエズス彼らにのたまいけるは、汝ら祈る時にかく言え¹、父よ、願わくはみ名の聖とせられんことを、み国の来らんことを、3われらの日用の糧を日々われらに与え給え²、4わ

れらもすべておのれに負債おひめある人を許すにより、われらの罪を許し給え、われらを試みに引き給うことなかれ、と。

5 ねだる友のたとえ 5 またのたまいけるは、汝らのうち友を持てる者、夜中にそのもとに行き、
6 友よ、われに三つのパンを貸せ、6 わが一人の友人旅路旅路をわがもとに来れるに、これに供すべき
7 ものなけれど、と言わんに、7かれ内より答えて、われをわざらわすことなけれ、戸はすでに閉
じ、わが子ども、われとともに床にあれば起きて汝に与うることを得ず、と言うことあらんか、
8 さるを、なおたたきてやまざる時は、われ汝らに告ぐ、かの人、たといおのが友なればとては
 起きて与えざるも、そのわざらわしさのために起きて、その要するほどのものを与うるならん。
9 われも汝らに告ぐ、願え、さらば与えられん、探せ、さらば見出ださん、たたけ、さらば「戸
10 を」開かれん、10 そはすべて願う人は受け、探す人は見出だし、たたく人は「戸を」開かるべけれ
 ばなり。11 汝らのうち、たれか父にパンをこわんに、その父石を与へんや、あるいは魚を「こわ
 んに」、その代わりに蛇を与へんや、12 あるいは卵をこわんに、さそりを与へんや、13 されば汝ら
 悪しき者ながらも、良き賜ものをその子どもに与うるを知れば、いわんや天にまします汝らの父
 は、おのれに願う人々に善良なる靈3を賜うべきをや、と。

14 フアリザイ人らの冒瀆(マルコ3・20) 14 イエズス、悪魔を追い出だし給うに、その人おし
15 なりしが、すでに悪魔を追い出だし給うや、おしもの言いしかば群衆感嘆せり。15 されど、その
 うちのある人々は、彼が悪魔を追い出だすは悪魔の頭かしらベエルゼブブによるなり、と言い、16 また
 他の人はイエズスを試みんとて天よりの印をこれに求めたり。

ご答弁 17 イエズスその心を見抜きて彼らにのたまひけるは、すべて自ら分かれ争う國は滅び、
 「分かれ争う」家と家ともまた倒るべし、18 サタンもし自ら分かれ争わば、その国いかにしてか
 立つべき、けだし汝らは言う、われベエルゼブブによりて悪魔を追い出だす、と。19 われもしベ
 エルゼブブによりて悪魔を追い出だすならば、汝らの子どもは、たれによりてこれを追い出だす
 ぞ、さらば彼らは汝らの審判者となるべし。20 されどわれ、もし神の指をもつて悪魔を追い出だ
 すならば、神の国は誠に汝らに来れるなり。21 強き者、武装してその住み家かを守る時は、その持
 てる物安全なりといえども、22 もし彼より強き者襲い来て彼に勝たば、ことごとくその頼める
 武器を奪いて、その分捕り物とんとを分かたん。23 われとともにあらざる人は、われに反し、われとと
 もに集めざる人は散らすなり。

悪魔の返報 (ヘンボウ マテオ12・43 ~ 45) 24 汚鬼おき、人より出でし時、荒れたる所を巡りて休みを求むれど
 も得ず、いわく、出でしわが家いえに帰らん、と。25 すなわち来りて、その家の掃き清められ飾られ
 たるを見るや、26 行きて、おのれよりも悪しき七つの悪鬼あくきを携え、ともに入りてここに住む、か
 くてその人の末は、前よりも更に悪しくなるなり、と。

母、幸いなりと言わる 27 これらのこととのたまえるに、ある女、群衆のうちより声をあげて、
 幸いなるかな、汝を宿しし胎たいよ、汝の吸いし乳房ちよきよ、と言いかば、28 イエズスのたまひけるは、
 むしろ幸いなるかな、神の御言葉を聞きて、これを守る人々よ、と。

ヨナの印 (マテオ12・38 ~ 42) 29 さて群衆馳せ集まりければ、イエズス語り出で給ひけるは、現代は邪じや
 惡の世にして印を求むれども、予言者ヨナの印のほかは印を与えられじ、30 すなわちヨナがニニ

31 ヴ人に印となりしことく、人の子の現代におけるもまたしかり。31 南方の女王^{*}は審判にあたりて
現代の人とともに立ちてこれを罪に定めん、彼は地の果^{はせ}よりサロモンの知恵を聞かんとて來⁵りた
ればなり、見よ、サロモンにまされる者ここにあり。32 ニニヴ人は審判にあたりて現代の人とと
もに立ちてこれを罪に定めん、彼らはヨナの説教によりて改心したればなり、見よ、ヨナにまさ
れる者ここにあり。33 灯^{ともしづ}をともして隠れたる所、またはますの下に置く者はあらず、入り来る人
に明りを見せんためにこれを燭台の上に置く。34 汝の身の灯は目なり、その目にしてよくば全身
明らかなるべく、もし悪しくばその身もまた暗かるべし。35 このゆえに汝にある明りの闇になら
ざるよう用心せよ、36 汝の全身明らかにして闇の所なくば、全体明らかにして輝ける灯に照らさ
るるごとくならん、と「語り給えり」。

37 フアリザイ人をとがめ給う(マテオ23)

37 イエズス語り給えるうちに、一人のフアリザイ人、お
のが家にて食し給わんことをこいしかば、入りて食につき給いしが、38 イエズス、食前に身を洗
い給わざりしを、この人見ていぶかりければ、39 主これにのたまいけるは、さても汝らフアリザ
イ人は、杯^{さかずき}と皿との外を清むれど、汝らの内は盜みと不義とに満てり。40 愚なる者どもよ、外
を造り給いしものは、また内をも造り給いしにあらずや。41 さりながら余れるものを施せ、しから
ばいつさいのもの、ただちに汝らのために清めらるべし。42 されど禍いなるかな汝らフアリザイ
人、そは薄荷^{はくか}、ヘンルダ、その他いっさいの野菜⁸の十分の一を納むれど、義と神を愛することと
をさしあげばなり、これらをなしてこそ彼らをも怠らざるべかりしなれ。43 禍いなるかな汝らフ
アリザイ人、そは会堂にては上座を、巷^{ちまた}にては敬礼を好めばなり。44 禍いなるかな汝ら、けだし、

現われざる墓に似て、上を歩む人々これを知らざるなり、と。

律法學士をとがめ給う 45 律法學士の一人これに答えて、師よ、かく言ひては、われらにも侮辱を加うるなり、といしかば、46 イエズスのたまいけるは、汝らも禍いなるかな律法學士、そは人々には、にない得ざる荷を負わすれど、自らは指一つだも、その荷に触れざればなり。47 禍いなるかな汝ら予言者たちの墓標^{はかじるし}を建つる者、これを殺ししは汝らの先祖にして、48 汝ら自らその先祖の仕業^{しわき}に同意することを証す、そは彼らこれを殺したるに汝らその墓を建つればなり。49 これによりてまた神の知恵のたまわく、「われ彼らに予言者および使徒たちを遣わさんに彼らはそのうちの者を殺し、または迫害せん」と。50 されば世界開闢以来、流されたるすべての予言者の血、51 すなわちアベルの血より祭壇と神殿との間に倒れしザカリアの血に至るまで現代はその罪を問われん、われ誠に汝らに告ぐ、現代はかくのことく罪を問わるべし。52 禍いなるかな汝ら律法學士、そは知識の鍵^{かぎ}を奪い取りて自らも入らず、入らんとする人々をも拒みたればなり、と。53 敵の陰謀^{いんぼう} 53 これらのこととのたもううちに、ファリザイ人、律法學士ら、はなはだしく憤り出でて、さまざまのことともつて閉口せしめんとし、54 イエズスを訴えんとして陰謀をめぐらし、その口より何ごとをか捕えんとせり。

① マテオ6・9～13 ② あるいは、あしたの糧を日々に与え給え。③ 聖靈の意。④ ヨナ2・1 ⑤ 列王記略上10、歴代史略下9 ⑥ 悔い改めたからである。ヨナ3・5 ⑦ 本書8・16、マテオ5・15、6・21、22、マルコ4・21
⑧ 納めるに及ばないささいなものに至るまで。

1 第十一章 種々の教訓 (1) 偽善のこと 1 その時、おびただしき群衆、めぐりに立ちいて踏み合うばかりなるに、イエズス弟子たちに語り出で給いけるは、ファリザイ人らのパン種に用心せよ、

2 これすなわち偽善なり。2 おおわれたることに現われざるべきはなく、隠れたることに知れざる
 3 べきはなし。² 3 そは汝らの暗闇にて言いしことは明るみに言われ、部屋にてささやきしことは屋
 根にて述べらるべければなり。

(2) 勇氣のこと 4されば、われわが友たる汝らに告ぐ、肉体を殺して、そののちに何をもなし得
 5ざる者を恐ることなかれ。³ 5 ここに汝らの恐るべきものを示さん、すなわち殺したるのち地獄
 6に投げ入るる權能あるものを恐れよ、しかし、われ汝らに告ぐ、これを恐れよ。6 五羽の⁴すずめ
 7は四せんにて売るにあらずや、しかるに、その一羽も神のみ前に忘れらることなし。7 汝らの
 8髪の毛すら、みな数えられたり、ゆえに恐ることなかれ、汝らは多くのすゞめにまさり。8
 われ汝らに告ぐ、すべて人々の前にてわれを宣言する者は、人の子もまた神の使たちの前にてこ
 れを宣言せん。⁶ 9 されど人々の前にてわれを否む者は、神の使たちの前にて否まるべし。10 また、
 11すべて人の子をそしる人は許されん、されど聖靈に対して冒瀆したる人は許されじ。⁷ 11 人々汝ら
 を会堂に、あるいは官吏、權力者の前に引かん時、いかに、または何を答え、または何を言わん
 12かと思ひわざらうことなかれ、12 言うべきことは、その時にあたりて聖靈汝らに教え給うべけれ
 ばなり、と。

13 貪欲を戒め給う 13 かくて群衆のうちより、ある人イエズスに向かい、師よ、わが兄弟に命じ
 14 て家督をわれとともに分かたしめ給え、と言いしかば、14 イエズスこれにのたまひけるは、人よ、
 15 汝らの上の判事または分配者として、たれかわれを定めしそ、と。¹⁵ かくて人々にのたまひける
 は、慎しみてすべての貪欲用心せよ、そは人の生命は持ち物の豊かなるによらざればなり、と。

富豪のたどえ 16 また彼らにたとえを語りてのたまひけるは、ある富者の畠、豊かに実りければ、¹⁷その人、心のうちに考えけるは、わが産物を積むべき所なきをいかにせんと。¹⁸ついに言えらく、われは、かくすべし、すなわちわが倉をこぼち、更に大いなるものを建てて、そこにわが産物と財貨とを積まん、¹⁹しかしてわが魂に向かい、魂よ、多年の用意にたくわえたる財産あまたあれば、心を安んじ飲食して楽しめ、と言わん、と。²⁰されど神は彼にのたまわく、愚か者よ、汝の魂は今夜呼び返されんとす、さらば備えたるものは、たがものとなるべきぞ、と。²¹おのれのために宝を積みて神のみ前に富まさる人は、かくのごとき者なり、と。

世の思いわざらいを避けよ（マテオ6：25～33） 22 また弟子たちにのたまひけるは、さればわれ汝らに告ぐ、生命のために何をか食い、身のために何をか着ん、と思いわざらうことなかれ、²³生命は食い物にまさり、身は衣服にまさり。²⁴からずをかんがみよ、まくことなく、刈ることなく、倉をも納屋をも持たざれども、神はこれを養い給うなり、汝らのからずにまさること幾ばくぞや。²⁵汝らのうち、たれか工夫して、おのが寿命に一肘いっしゅうだも加うることを得んや、²⁶されば、かくいと小さきことすらもあたわざるに、何ぞ、その他のことを思いわざらうや。²⁷ゆりのいかに育つかをかんがみよ、働くことなく紡つむごとなし、されども、われ汝らに言う、サロモンだも、その栄華の極きわみにおいて、かのゆりの一つほどに装わざりき。²⁸今日野にありて明日炉に投げ入れらるる草をさえ、神はかく装わせ給え巴、いわんや汝らをや、信仰薄き者*どもかな。²⁹汝らも何をか食い、何をか飲まんと求むることなけれ、また大望たいもうを起こすことなけれ、³⁰けだし世の異邦人は、このいっさいのものを求むれども、汝らの父は汝らのこれを要することを知り給え巴なり。³¹され

32 ば、まず神の国と、その義とを求めよ、さらばこのいっさいのものは汝らに加えらるべし。32 小さき群よ、恐ることなけれ、汝らに國を賜うことは汝らの父のみ心にかないたればなり。33 汝らの持ち物を売りて施しを行なえ、おのれのために古びざる金袋を作り、つきざる宝を天にたくわえよ、かしこには盜人ぬすびと¹¹も近づかず、しみもそこなわざるなり。¹⁰ 34 これ汝らの宝のある所には心もまたあるべければなり。

35 警戒すべし 35 汝ら腰に帶して手に灯ともじあるべし。36 また、あたかも主人婚宴より帰り来りて門をたたかば、ただちに開かんと待ち受くる人のごとくにせよ。37 主人の来る時に目覚めたるを見らるるしもべらは幸いなり、われ誠に汝らに告ぐ、主人自ら帶して、このしもべらを食につかせ、通かよいて彼らに給仕せん。38 主人十二時までに来るも、三時までに来るも、しもべらのかくのごときを見ば彼らは幸いなり。39 汝ら知るべし、家父かかもし盜人の来るべき時を知らば必ず警戒して、40 その家をうがたしめじ。40 汝らもまた用意してあれ、人の子*は汝らの思わざる時に来るべければなり、と。41 ペトロ、イエズスに向かい、主よ、このたどえをのたもうは、われらのためにか、すべての人のためにもか、といしかば、42 主のたまいけるは、時に応じて家族に麦をほどよく分け与えしめんとて戸主こしゅがその家族の上に立つる忠義にしてさとき執事はたれなるか、43 主人の来る時に、かく行なえるを見らるるしもべは幸いなり。44 われ誠に汝らに告ぐ、主人はおのが持てるいっさいのものを、これにつかさとらしめん。45 もしかのしもべ、心のうちに、わが主人の来る46 こと遅しと書いて、下男げなん、下女げじょを打ちたたき、飲み食いして酔い始めんか、46 期せざる日、知らざる時に、かのしもべの主人來りてこれを罰し、その報いを不忠者ものと同じくせん。47 またその主

48

人の意を知りて用意せず、主人の意に従いて行なわざるしもべはむち打たること多からん。⁴⁸
 しかれども知らずしてむち打たるべきことをなしたる者は、打たること少なかるべし、すべて
 多く与えられたる人は多く求められ、委託したこと多ければ催促することも多かるべし。

教えの結果

49 われは地上に火を放たんとて来れり、その燃ゆるほかには何をか望まん。⁵⁰ し

かるに、われにはわが受くべき洗礼あり、そがしとげらるるまで、わが思い迫れることいかばか
 りぞや。⁵¹ 汝らは、われ地上に平和を持ち来れりと思うか、われ汝らに告ぐ、いな、かえつて分離
¹⁴ なり。⁵² けだし今よりのち、一家に五人あらば三人は二人に、二人は三人に對して分かれん、⁵³
 すなわち父は子に、子は父に、母は娘に、娘は母に、姑は嫁^{よめ}に、嫁は姑に對して分かることあ
 らん、と。

季節の印 ¹⁵ **54** イエズスまた群衆にのたまひけるは、汝ら西より雲起くるを見れば、ただちに雨
 来らんと言う、すでにして、はたしてしかり。⁵⁵ また南風吹くを見れば、暑くなるべしと言う、
 すでにして、はたしてしかり。⁵⁶ 偽善者よ、汝らは天地のありさまを見分くることを知れるに、
 いかんぞ今の時を見分けざる、⁵⁷ いかんぞ正しきことを自ら見定めざる。

改心の急務 ⁵⁸ 汝ら相手とともに官吏のもとにに行く時、途中にて彼に許されんことを努めよ。¹⁶
 おそらくは汝を判事のもとに引き、判事は下役^{したやく}に渡し、下役は監獄に入れん、⁵⁹ われ汝に告ぐ、

最終の一りんまでも返さざるうちは汝そこを出でざるべし、と。

①マテオ16・6、マルコ8・15 ②マテオ10・26、マルコ4・22 ③マテオ10・28~31 ④神の意。⑤原文には
 ニアスとある。ニセンニりんに当たる銅貨。⑥マテオ10・32、マルコ8・38、チモテオ後書2・12 ⑦マテオ12・
 マルコ3・29 ⑧原文には魂とある。マテオ16・25を見よ。⑨ラテン訳では身長、マテオ6・27を見よ。⑩聖德。マテ

オ 6・33を見よ。⑪マテオ6・21 ⑫原文には第二更に。⑬原文には第三更に。⑭マテオ10・34、35 ⑮マテオ16・
3、⑯マテオ5・25、26 ⑰原文にはレプトンとあって二りんにも当たらない銅貨。

第十三章

1 あたかもその時人ありて、ピラトが数人のガリレア人の血を彼らの犠牲いけにえにまじえし
2 ことを告げしかば、2 イエズス答えてのたまいけるは、汝らは、かのガリレア人が、かかる目に
3 会いたればとて、すべてのガリレア人にまさりて罪深かりしと思うか。3 われ汝らに告ぐ、しか
4 らず、されど改心せずば汝らもみな同じく滅ぶべし。4 またシロエにおいて倒れたる塔のために
5 押し殺されし、かの十八人もエルザレムに住めるすべての人間にまさりて負債ありしと思うか。5
われ汝らに告ぐ、しからず、されどもし改心せずば汝らもみな同じく滅ぶべし、と。

6 実らざるいちじくの木のたとえ 6 イエズスまたたとえを語り給いけるは、ある人そのぶどう
7 畑にいちじくの木を植えたりしが、來りてその実を求めたれど得ざりしかば、7 ぶどう畑の小作こさく
人に言ひけるは、われ來りて、このいちじくの木に実を求むれど得ざることすでに三年なり、さ
8 ればこれを切り倒せ、何ぞいたずらに地をふさぐや、と。8 小作人答えて、主よ、今年もこれを
9 許し給え。われ、そのまわりを掘りて肥料をほどこしなば、9 あるいは実を結ぶこともあらん、
もしなくば、そのうちに切り倒し給うべし、と言えり、と。

14-13 12 11-10 10 瘢疾はいじゆの女をいやし給う 10 安息日にあたりてイエズス彼らの会堂にて教え給いけるに、11 おり
12 しも十八年以來瘢疾の鬼につかれ、かがまりて少しも仰ぎ見ることあたわざる女あり。12 イエズ
ス見てこれを呼び近づけ給い、女よ、汝はその瘢疾より救わたるぞ、とのたまひて、これに接
手し給いしかば、13 女ただちにのびて神に光榮を帰したり。14 しかるに会堂の司つかさ、イエズスの

24-23 22

23

狭き門より入るべし 22 かくてイエズス、町、村を教えつゝ過ぎてエルザレムへ旅し給うに、
ある人、主よ、救わるる者は少なきか、と言いかば、人々にのたまひけるは、24 狹き門より

安息日にいやし給いしを憤り、答えて群衆に向かい、働くべき日六日あり、さればその間に來り
ていやされよ、安息日にはなすべからず、と言ひければ、15 主答えてのたまひけるは、偽善者ど
もよ、汝らおののおの安息日にあたりて、おのが牛あるいは、馬を、かいばぶねより解き放ちて水みず
飼かいに引き行くにあらずや。16 しかるを、この十八年間サタン*につながれたるアブラハムの娘は、
17 そのつなぎを安息日に解かるべからざりしか、と。17 イエズスのことどもをのたまひけるに、
反対せる者どもみな赤面し、人民はこぞりてイエズスの手になさるる光榮あるすべてのことを喜
びいたり。

18 からし種のたどえ(マルコ4・30³¹, マテオ13・32³³) 18 すなわちのたまひけるは、神の国は何にか似たる、
われこれを何にかなぞらえん、19 あたかも一粒のからし種のごとし、人これを取りて、その畑に
まきたれば、育ちて大木²となり、空の鳥その枝に休めり、と。

21-20 パン種のたどえ(マテオ13・33) 20 またのたまひけるは、われ神の国を何にかなぞらえん、21 あたか
もパン種のごとし、女これを取りて三斗の粉のうちに隠せば、ついにことごとくふくるに至る、
と。

第二項 旅行中の他の事実

入ることを努めよ、けだし、われ汝らに告ぐ、多くの人、入ることを求むべけれども、しかもあ
 たわざるべし。³ 25 家父すでに入りて門を閉じたらん時には、汝ら外に立ちて、主よ、われらに開
 き給え、と言いつつ門をたたき始むべけれど、彼答えて、われ汝らがいづくの者なるかを知らず、
 26 と言わん。 26 汝らその時、われらは汝のみ前にて飲食し、汝はわれらの巷^{ちまた}にて教え給いしなり、
 27 と言わんとすべし。 27 しかれども彼、汝らに向かい、われ汝らがいづくの者なるかを知らず、悪
 28 をなす徒輩^{ともがら}よ、ことごとくわれより去れ、と言わん。 28 かくて汝ら、アブラハム、イザアク、ヤ
 コブおよびいっさいの予言者は神の国にありながら、おのれらのみ追い出ださるるを見ば、そこ
 に嘆きと歎がみとあらん。⁴ 29 また東西南北より来りて神の国にて席につく人々あらん。 30 かくて
 30-29 見よ、あとなる人は先になり、先なる人はあとにならん、と。

31 ヘロデの悪計^{あくせい} 31 同じ日にファリザイ人數人近づきてイエズスに向かい、ヘロデ、汝を殺さん
 32 とす、出でてここを去れ、と言いしかば、32 彼らに向かいてのたまいけるは、行きて、かの狐に
 告げよ、見よ、今日も明日も、われ惡魔を追い払い、人々をいやし、しかして三日目にわがこと
 終わるべし、33 しかれども、今日も明日も、その次の日も、われは歩まざるべからず、そはエル
 ザレムのほかに倒るるは予言者たる者にとりてふさわしからざればなり、と。

34 エルザレムの禍い^(マテオ23) 34 エルザレムよ、エルザレムよ、予言者たちを殺し、汝に遣わ
 されたる人々に石を投げ打つ者よ、あたかも鳥が巣^ナびなをつばさの下に「集むる」ごとく、われ
 汝の子どもを集めんとせしこと幾たびぞや、されど汝これをがえんぜざりき。³⁵ 見よ、汝らの家⁵
 は荒れすたれて汝らに残らん、われ汝らに告ぐ、主のみ名によりて来るもの祝せられよかし、と

汝らの唱えん時至るまで、汝らわれを見ることなかるべし、と。

①ラテン訳では悔悛。②約三メートル以上。③マテオ7・13 ④マテオ8・11、12 ⑤市街あるいは聖殿の意。

第十四章 水腫の人をいやし給う

1 イエズス、安息日にパンを食せんとてファリザイ人の頭かしらだ
2 ちたるある者の家に入り給いしかば、彼らこれをうかがいたり。2 おりしも水腫すいしゅにかかる人
3 み前におりければ、3 イエズス答えて律法學士とファリザイ人とに向かい、安息日にいやすはよ
4 きか1、とのたまいしに、4 彼ら默然たりしかば、イエズス彼を捕えていやし、さてこれを去らし
5 めて、5 彼らに答えてのたまいけるは、汝らのうち、おのがろばあるいは牛の井いに落ちたるもの
6 あらんに、安息日なりとも、たれか速かにこれを引き上げざらんや、と。6 彼らはこれに對して
答うことあたわざりき。

7 上席を求むべからず 7 また招かれたる人々の上席を選むありさまを見て、彼らにたとえを語
8 りてのたまいけるは、8 汝、婚宴に招かれたる時、上席につくことなかれ、おそらくは汝よりも尊
9 き人の招かれたるに、9 汝と彼とを招きたる人來りて汝に向かい、こう、この客に席をゆずれ、
10 と言わん、しからば汝赤面せきめんして末席につくに至るべし。10 されば招かれたる時、行きて末席につ
け、しからば招きたる人來りて、友よ、かみ上に進め、と言わん。かくて汝、列席せる人々の前に面めん
11 目あるべし。11 けだし、すべて自ら高ぶる人は下げられ、自らへりくだる人は上げらるべし、と。
12 純粹の慈善 12 イエズスまた、おのれを招きたる人にのたまいけるは、汝、午さんごさんまたは晩さ
んを設くる時、朋友ほうゆう、兄弟、親族、富める隣人を招くことなかれ、おそらくは彼らもまた汝を招
きて汝に報いとならん。13 さて饗宴きょうまいを設けば、貧窮ひんきゅう、かたわ、足なえ、めしいなる人を招け、14

彼らは汝に報ゆべき由よしなくして、汝、幸いなるべし。そは義人の復活の時に報いらるべければなり、と。¹⁵列席者の一人これを聞きてイエズスに言ひけるは、神の国にてパンを食せん人は幸いなるかな、と。

晩さんに招かるる人のたどえ¹⁶ イエズスこれにのたまひけるは、ある人、大いなる晩さんを設けて多くの人を招待せしが、¹⁷ 晚さんの時刻に至りてしもべを遣わし、もはや万事整いたれば來られよ、と招かれたる人々に言わしめしに、¹⁸ 彼らみな一同に断わり出でたり。初めの者は、われ小作場こきばを買いたれば行きて見ざるべからず、こう、われを許せ、¹⁹ 次の者は、われ五、²⁰ びきの牛を買いたれば行きて試みんとす、こう、われを許せ、²¹ また一人は、われ妻をめとりたるがゆえに行くことあたわず、²² と言ひしかば、²³ しもべ帰りて、その次第を主人に告げしに、家父怒りてしもべに言ひけるは、速かに町の巷ちまたと辻つじとに行きて、貧窮、かたわ、めしい、足なえなる人々を、ここに伴い来れ、と。²⁴ しもべやがて、主よ、命じ給いしごとくにせしかどなお空席あり、²⁵ と言ひしかば、²⁶ その時、主人しもべに言ひけるは、汝、道およびま垣がきのもとに行き、人をしてわが家に満つるまで入らしめよ、と。²⁷ われ汝らに告ぐ、かの招かれたる者たち、一人もわが晩さんを味わわじ、と。

弟子たるの心得 ²⁵ 群衆おびただしくイエズスに伴いければ、顧みてのたまひけるは、人われに來りて、²⁶ その父母ふぼ、妻子さいし、兄弟、姉妹、おのが生命2までも憎むにあらざれば、わが弟子たることあたわず、²⁷ また、おのが十字架をにないて、われに従わざる人は、わが弟子たることあたわず。⁴ 汝らのうち、たれか塔を建てんと欲して、まず坐してこれに要する費用を計り、持てる

物のこれを成就するに足れりやいなやを数えざらんや、²⁹もし礎を定めたるのち成就することあ
たわづば、見る者これをあざけり出でて、³⁰この人は建て始めて成就することあたわざりき、と
言わん。³¹また、いかなる王か、出でて他の王と戦いを交えんとするにあたり、まず坐して、二
万を率い来る者に、よくわが一万をもつて向かうことを得べきか、と、おもんばかりざらんや、
³²もし得べからずば敵のなお遠き間に使節を遣わして講和こうわを求むべし。³³これと等しく汝らのう
ち、その持てる物を、ことごとく見かぎらざる者は、たれにてもあれ、わが弟子たることあたわ
ず。³⁴塩は良きものなり、されど塩もしその味を失わば、何をもつてかこれに塩せん、³⁵土地に
も肥料にも益なくして外に捨てられんのみ、聞く耳を持つては聞け、と。

^①マテオ12・10 ^②原文では魂。 ^③真に憎むのではない。神を愛することが厚いのに対しても對して言つただけ。 ^④マテ
オ16・24、マルコ8・34、本書9・23 ^⑤マテオ5・13、マルコ9・49

第十五章 罪人に対する心得、失せたる羊のたとえ

1 時に税吏みつぎとり、罪人つみひとら、イエズスに聞かんと
て近づきければ、²ファリザイ人*、律法學士*らつぶやきて、この人は罪人を受けてともに食する
よ、と言いたりしかば、³イエズス彼らにたとえを語りてのたまひけるは、⁴汝らのうち、た
れか百頭の羊ありて、その一頭を失いたらんに、九十九頭を野におきて、その失せたるものを見
出だすまで尋ねざらんや。⁵さてこれを見出ださば、喜びておのが肩に乗せ、⁶家に帰りて朋友ほうゆう
隣人を呼び集め、われ失せたりし羊を見出だしたれば、われとともに喜べ、と言わん、⁷われ汝
らに告ぐ、かくのごとく改心する一人の罪人のためには、改心を要せざる九十九の義人のためよ
りも天において喜びあるべし。

失せたる銀貨のたとえ 8 また、いかなる女かダラクマ十枚ありて、その一枚を失いたらんに、
 9 灯をともし家を掃きて見出だすまでよく探さざらんや。9さて見出ださばおのれの朋友隣人を呼
 10 び集めて、わが失いたりしダラクマを見出だしたればわれとともに喜べ、と言わん。10われ汝ら
 に告ぐ、かくのごとく改心する一人の罪人のためには神の使たちの前に喜びあるべし、と。
 放蕩息子のたとえ 11 またのたまいけるは、ある人一人の子ありしが、12次男なる者父に向か
 い、父よ、われに当てらるべき分の財産をわれに賜え、と言いしかば、父は子どもに財産を分か
 13 てり。13さて幾日も経ざるに次男はいつさいをかき集めて遠国へ出立し、かしこにて放蕩なる生
 活に財産を浪費せり。14すでに、いつさいを費やしてのち、かの地方に大飢饉起こりしかば、彼
 15 もようやく乏しくなり、15その地方のある人のもとに至りてこれにすがりしに、その人これを、
 16 おのが小作場にやりて豚を飼わせたり。16かくて豚の食らう豆がらもて、おのが腹を満たさんこ
 とを望みいたりしかど、これを与うる者なかりき。17やがて自ら省みて言ひけるは、わが父の家
 18 にはパンに飽ける雇い人、幾乎かあるに、われはここにて飢え死なんとす。18立ちてわが父の
 19 もとに至り、父よ、われは天に対しても汝の前にも罪を犯せり、19われはもはや汝の子と呼ばぶ
 20 るに足らず、願わくは、われを汝の雇い人の一人と見なし給え、と言わん、と。20すなわち立ち
 て父のもとをさして行きしが、いまだほど遠かりけるに、父はこれを見てあわれを感じ、走り行
 21 きてその首を抱き、これに接吻せり。21子は、父よ、われは天に対しても汝の前にも罪を犯せり、
 22 われはもはや汝の子と呼ばぶるに足らず、と言ひしかど、22父はしもべらに向かい、早く最上の
 23 服を取り来りてこれに着せ、その手に指輪をはめ、足に靴をはかせよ、23また肥えたる小牛を引

き來りてほふれ、われら会食して樂しまん、²⁴そはこのわが子死したるによみがえり、失せたる
 に見出だされたればなり、²⁵と書いて宴を開けり。²⁵しかるに長男は畠にいたりしが、帰り來りて
 家に近づく時、奏樂踊りの物音聞こえしかば、²⁶しもべの一人を呼びて、こは何ごとぞと問いし
 に、²⁷しもべ言ひけるは、汝の弟来れり、これをつつがなく迎えたるにより、汝の父肥えたる小
 牛をほふりたるなり、と。²⁸長男憤りて家に入ることをがえんぜざりしかば、父出でてねんごろ
 にこい出でけるに、²⁹彼答えて言ひけるは、見よ、われは多年汝に仕え、いまだかつて汝の命に
 そむきことなきに、一匹の小山羊こやぎだも友だちとともに會食せんために汝より与えられしことな
 し。³⁰しかるを娼妓しょうぎらとともに財産を食いつくしたる、かの汝の子来るや、汝はこれがために肥
 えたる小牛をほふれり、と。³¹父これに言ひけるは、子よ、汝は常にわれとともにおりて、わが
 ものはみな汝のものなり、³²されども汝の弟は死したるによみがえり、失せたるに見出だされた
 れば、われら愉快をつくして喜ばざるを得ざりしなり、と。

^①およそ三十せんに当たる銀貨。 ^②ラテン訳では悔悛。

不正なる家令のたとえ 1 イエズスまた弟子たちにのたまひけるは、ある富豪ふこうに一人
 の家令ありしが、主人の財産を浪費せりとて訴え出でられしかば、²主人彼を呼び、わが汝につ
 きて聞くところは、これ何ごとぞや、汝もはや家令たるを得ざれば、家令たりし時の会計を差し
 出だせ、と言ひしに、³家令心のうちに言ひけるは、わが主人、家令の職をわれより奪える上は、
 われ何をなすべきぞ、耕すことはかなわず、乞食こじきするは恥ずかし、⁴家令をやめられたるのち、
 人々の家に受けられんためには、なすべきようこそあれ、とて、⁵主人に負債ふさいある人々を呼び集

6 めて、初めの一人に言ひけるは、わが主人に対する汝の負債は幾ばくぞ、と。6 彼、油百樽たるなり、
 7 と言ひしに、家令かれい言ひけるは、汝の証書を取り、早く坐して五十と書け、と。7 また次の者に言
 いけるは、汝の負債は幾ばくぞと、彼、麦百石こくなり、と言ひしに家令言ひけるは、汝の証書を取
 8 りて八十と書け、と。8 しかるに主人、この不正なる家令をほめて、その手段を巧みなりとせり。
 けだし、この世の子どもは互ひいに光の子どもよりも巧みなればなり。

富の利用につきて 9 われもまた汝らに告ぐ、汝ら不正の富をもつて友人ゆうじんを作り、息絶えしの
 10 ち汝らを永遠の住み家かに受け入れしむべくせよ。10 そもそも小事しょうじに忠なる人は大事にもまた忠な
 11 り、小事に不正なる人は大事にもまた不正なり。11 されば汝ら、もし不正の富において忠ならざ
 12 りせば、たれか誠の富を汝らに託せん。12 また他人のものにおいて忠ならざりせば、たれか汝ら
 13 のものを汝らに与えん。13 一人のしもべは二人の主にかね仕うことあたわず、あるいは一人を
 憎みて一人を愛し、あるいは一人に従いて一人をうとむべければなり。汝らは神と富とにかね仕
 うることあたわず、「とのたまえり」。

フアリザイ人つぶやく 14 しかるに貪欲どんよくなるフアリザイ人ら、この始終しじゅうのことを見てあざけ
 りければ、15 イエズス彼らにのたまいけるは、汝らは人の前に自ら義とする者なり、されど神は
 16 汝らの心を知り給う、けだし人にとりて高き者は神のみ前に憎むべき者なり。16 律法と予言者た
 ちとはヨハネをかぎりとす、その時より神の国は述べ伝えられ、人々力をつくしてこれに至ら
 んとす。17 天地のすたるは律法の一画いっかくの落つるよりはやすし。18 すべて妻を出だして他にめとる
 人は姦淫かんいんを行なう者なり、また夫より出だされたる女をめとる人は姦淫を行なう者なり。

19 無慈悲なる富豪のたどえ 19かつて一人の富豪あり、緋色の布と亞麻布とをまとい日々おごり
 暮らしたるに、20またラザルと言える一人の乞食あり、全身はれただれて富豪の門前にあし、21そ
 の食卓より落つるくずに飽き足らんことを欲すれども与うる人なく、しかも犬ども来りてその腫
 物もつをねぶりいたり。22しかるに乞食死にければ天使に携えられてアブラハムの懷ふところに至りたるに、
 富豪もまた死して地獄に葬られしが、23苦痛のうちにありて目をあげて、はるかにアブラハムと、
 24その懐なるラザルとを見、24叫びて言ひけるは、父アブラハムよ、われをあわれみてラザルを遣わ
 し、その指先を水にひたしてわが舌したを冷させ給え、われはこの炎のうちにいたく苦しめるを、と。
 25アブラハムこれに言ひけるは、子よ、汝が存命の間、良きものを受け、ラザルが同じ間に悪しきも
 のを受けしを記憶せよ、さればこそ今、彼は慰められて汝は苦しむなれ。26しかのみならず、われ
 らと汝らとの間には大いなる淵あさの定めおかれたれば、ここより汝らの所へ渡らんと欲するもかな
 わず、そこよりここに移ることもかなわざるなり、と。27富豪また言ひけるは、しからば父よ、こ
 い願わくはラザルをわが父の家に遣わし、28われに兄弟五人あれば彼らもまたこの苦惱の所に來
 らざるよう、これに証明せしめ給え、と。29アブラハムこれに言ひけるは、モイゼ*と予言者たちと
 あれば彼らはこれに聞くべきなり、と。30富豪、いな、父アブラハムよ、されどもし死者のうちよ
 り至る者あらば彼ら改心すべし、と言ひければ、31アブラハムこれに向かいて、もしモイゼと予
 言者たちとに聞かざる彼らならば、たとい死者のうちより復活すとも言せざるべし、と言えり、と。

① マテオ6・24 ② ラテン訳では悔悛。

つまずきは来らざるを得ず、されどこれを來す人は禍いなるかな、² 石うすを首にかけられて海に投げ入れらるるは、この小さき者の一人をつまずかするよりは、むしろ彼にとりてまされり。
人を許すこと^(マテオ15:21, 18:22.) ³ 汝ら自ら注意せよ。もし汝の兄弟汝に罪を犯さばこれをいさめよ、しかしてもし改心せばこれを許せ、⁴ 一日に七たび汝に罪を犯して一日に七たび改心すと言いつつ汝に立ち帰らば、これを許せ、と。

信仰の効能^(マテオ17:19.) ⁵ 使徒たち、願わくは、われらの信仰を増し給え、と主に言ひしかば、
主のたまいけるは、汝らもしからし一粒ほどの信仰だにあらば、この桑の木に向ひて、抜け
て海に移り立て、と言わんに必ず汝らに従わん。

謙遜すべし ⁷ 汝らのうち、たれかしもべの耕し、あるいは牧して畠より歸れる時、これに向かひて、ただちに行きて食せよ、と言う者あらんや。 ⁸ かえつて、わが夕餉を支度し、わが飲食するうち帶してわれに給仕せよ、さてのちに汝飲食すべし、と言うにあらずや。 ⁹ 命ぜしことをなしたればとて、主人はかのしもべに感謝するか、¹⁰ われ思うに、しからず。かくのごとく汝らも命ぜられしことをことごとくなしたたらん時、われらは無益のしもべなり、なすべきことをなしたるのみ、と言え、と。

第三項 旅行の終わり

¹¹ 十人のらい病者いやさる

11 イエズス、エルザレムへおもむき給うとてサマリアとガリレアと

12 の中ほどを通り給いしが、¹² ある村に入り給う時、十人のらい病者これを迎えて、はるかに立ち上がり、¹³ 声をあげて言ひけるは、師イエズスよ、われらをあわれみ給え、と。¹⁴ イエズスこれを見給うや、汝ら行きておのれを司祭たちに見せよ、とのたまいしかば、彼ら行くほどに途中にて清くなれり。¹⁵ そのうちの一人、おのれの清くなりたるを見るや、声高く神に光榮を歸しつつ² 帰り來り、¹⁶ イエズスの足もとに平伏して感謝せしが、これサマリア人なりき。¹⁷ イエズス答えてのたまいけるは、清くなりし者は十人にあらずや、その九人はいざこにかかる、¹⁸ この異邦人^{*} のほかは、立ち帰りて神に光榮を歸し奉れる者見えざるなり、と。¹⁹ すなわちこれにのたまいけるは、立ちて行け、けだし汝の信仰、汝を救えり、と。

神の国のあること ²⁰ 神の国はいつ来るべきか、と、ファリザイ人に問われし時、イエズス答えてのたまいけるは、神の国は目に見えて来るものにあらず、²¹ また、見よ、ここにあり、かしこにあり、と言うべきにもあらず、神の国は、すなわち汝らのうちにあればなり、と。²² また弟子たちにのたまいけるは、汝らが人の子の一日を見んと欲する日来らん、されどこれを見ざるべし。²³ また人は、見よ、ここにあり、かしこにあり、と言わんも行くことなけれ、従うことなけれ、²⁴ そはいなずまの閃^{ひらめ}きて空の果^{はモ}より果^{はモ}に光るごとく、人の子も、その日にあたりて、しかあるべければなり。²⁵ されど、あらかじめ多くの苦しみを受け、かつこの時代の人々に捨てられざるべからず。²⁶ ノエの日に起こうとし、人の子^{*} の日にもまた、しかあらん、²⁷ すなわちノエが箱舟に入る日まで人々飲み食いし、妻をめとり、めあわせられおりしが、洪水來りてことごとく彼らを滅ぼせり。²⁸ またロトの日に起こうとしならん、すなわち人々飲み食いし、売り買ひし、植

え、建てなどなしおりしが、²⁹ ロトがソドマ^{*}より出でし日には天より火と硫黄^{いおう}と降りて彼らをことごとく滅ぼせり。³⁰ 人の子^{*}の現わるべき日にもまた、かくのごとくなるべし。³¹ その時、人、屋根⁶において、器具、家の内にあらば、これを取らんとてくだるべからず、畑にある人もまた同じく帰るべからず。³² ロトの妻のこと⁷を思え。³³ すべておのが生命を救わんと欲する人はこれを失い、失わん人はこれを保たん。³⁴ われ汝らに告ぐ、かの夜には一人一つの寝床におらんに、一人は取られ一人は残されん、³⁵ 二人の女、ともにうすひきおらんに、一人は取られ一人は残されん、³⁶ 二人の男、畑におらんに、一人は取られ一人は残されん、³⁷ と。弟子たち答えて、主よ、いざこぞ、³⁸ と言ひしかば、³⁷ いざこにもあれ、屍^{しり}のあらん所にわしもまた集まるべし、とのたまえり。

① ラテン訳では悔悛。② ラテン訳では神を賛嘆しつつ。③ マテオ24・23、マルコ13・22
④ 創世記7、マテオ24・28
⑤ 創世記19・1~30
⑥ 屋根は平たいものであった。⑦ 創世記19・26
⑧ マテオ10・39、16・25
⑨ マテオ24・28
⑩ マテオ24・28を見よ。

判事と寡婦とのたどえ ¹ イエズスまた、人、常に祈りてうまざるべしとて彼らにたとえを語りてのたまいけるは、² ある町に神をも恐れず人をも顧みざる一人の判事ありしが、³ またその町に一人の寡婦^{やもめ}ありて彼に至り、われに仇^{あだ}する人を処分し給え、⁴ と言いたりしを、⁴ 彼、久しくがえんぜざりしかど、そののち心のうちに言えらく、われは神をも恐れず人をも顧みざれど、⁵ かの寡婦^{やもめ}のわれにわづらわしければ、これがために処分せん、しかせば最後には來りてわれを打たん、と。⁶ 主またのたまいけるは、汝ら、かの不義なる判事の言えることを聞け。⁷ 神は何すれぞ、その選み給える人々の昼夜^{あゆ}おのれに呼ばわるを処分せずして、その苦しめらるるを忍び給わんや。⁸ われ汝らに告ぐ、神は速かに彼らのために処分し給うべし。さりながら人

の子の来らん時、世に信仰を見出だすべきか²、と。

9 フアリザイ人と税吏とのたとえ 9 また、おのれを義人として自ら頼み、他をないがしろにせ
 る人々に向かいて次のたとえを語り給えり。10 二人の人、祈らんとて「神」殿にのぼりしに、一
 人はフアリザイ人^{*}、一人は税吏なりしが、11 フアリザイ人立ちて心のうちに祈りけるは、神よ、
 われは他の人の窃盜者^{せつとうしゃ}、不正者、姦淫者^{かんいんしゃ}なるがごとくならず、またこの税吏^{みつぎとり}のごとくにもあらざ
 ることを汝に感謝し奉る。12 われは一週間に二たび断食し、全歳入の十分の一を納むるなり、と。
 13 しかるに税吏は、はるかに立ちて目を天にあぐることだにもあえてせず、ただ胸を打ちて、神
 よ、罪人^{つみひと}なるわれをあわれみ給え、と言いいたり。14 われ汝らに告ぐ、この人は、かの人よりも
 義とせられて、おのが家にくだり行けり。けだし、すべて自ら高ぶる人は下げられ、自らへりくだ
 る人は上げらるべし、と。

15 幼子^{おさなこ}らを祝し給う（マルコ10章13節～16節） 15 時に人々またイエズスに触れしめんとて幼子を携え来
 りしを、弟子たち見て叱りけるに、16 イエズス、幼子を呼び寄せてのたまひけるは、子どものわ
 れに来るを許して、これを禁することなけれ、神の国は、かくのごとき人のものなればなり。17
 われ誠に汝らに告ぐ、たれにても幼子のごとく神の国を受くるにあらずば、これに入らじ、と。
 青年の富者（マルコ10章17節～22節） 18 一人の重だちたる者、イエズスに聞いて、良き師よ、われ何
 をなしてか永遠の生命を得べき、と言ひしかば、19 イエズスのたまひけるは、何ぞ、われを良き
 と言うや、神ひとりのほかに良きものはあらず。20 汝は捷を知れり、すなわち殺すなけれ、姦淫^{かんいん}
 するなけれ、盗みするなけれ、偽証するなけれ、汝の父母^{ちちはは}を敬え、とこれなり、と。21 彼、わが

22 幼年より、ことごとくこれを守れり、と言ひしに、22 イエズスこれを聞きてのたまひけるは、汝なお一つを欠けり、ことごとく汝の持てる物を売りて、これを貧者^{ひんじや}に施せ、しかば天において宝を得ん、しかしてのち来りてわれに従え、と。23 これを聞きて彼いたく悲しめり、そは富豪なればなり。

24 富の危険（マルコ^{10:19-23}₂₃₋₂₆） 24 イエズス、彼が悲しむを見てのたまひけるは、富める者の神の国に入るは、いかにかたきぞや、25 けだしらくだが針の穴を通るも、富者が天国に入るよりはやすし、と。26 これを聞ける人々、しかば、たれか救わることを得ん、と言いたるに、27 イエズスのたまひけるは、人にかなわざることも神にはかなうものぞ、と。

28 キリストのために、いつさいを捨つる人の報酬（マルコ^{10:19-27}₂₈₋₃₀） 28 その時ペトロ、さて、われらは、いつさいを捨てて汝に従ひたり、と言ひしかば、29 イエズス彼らにのたまひけるは、われ誠に汝らに告ぐ、たれにもあれ、神の国のために、あるいは家、あるいは両親^{ふたおや}、あるいは兄弟、あるいは妻、あるいは子どもを離るる人の、30 この世にて更に多くのものを受け、のちの世にて永遠の生命を受けざるはなし、と。

31 三たび受難を予言し給う（マルコ^{20:17-19}₃₂₋₃₄、本番⁹₂₂、マルコ^{10:44}） 31 かくてイエズス、十二人を携えてこれにのたまひけるは、われら、このたびエルザレムにのぼる、人の子^{*}につきて予言者たちの手に書きしるされたることは、ことごとく成就せん。32 すなわち彼は異邦人^{*}に渡され、なぶられ、はずかしめられ、つばきせられ、33 さてむち打ちたるのち彼らこれを殺さん、しかして三日目に復活すべし、と。34 十二人は、これらのこと少しも解せざりき、けだし、この言葉、彼らに隠され

て、その言わるところを悟らざりしなり。

エリコのめしいいやざる（マルコ10章20節29行～52行34行）
 35 イエズス、エリコに近づき給う時、一人のめしい、道ばたに坐して施しをこいおりしが、36 群衆の過ぐるを聞きて、こは何ごとぞと問ひけるに、37 人々、ナザレトのイエズスの過ぎ給う由を告げしかば、38 彼、叫びて、ダヴィドの子イエズスよ、われをあわれみ給え、と言えり。39 先立てる人々これを叱りて黙せしめんとすれども、彼ますます、ダヴィドの子よ、われをあわれみ給え、と叫びければ、40 イエズス立ち留まり、命じてこれを連れ来らしめ給い、その近づきし時これに聞いて、41 わが汝に何をなさんことを欲するぞ、とのたまいしに、彼、主よ、見えしめ給わんことを、と言えり。42 イエズスのたまひけるは、見えよ、汝の信仰、汝を救えり、と。43 彼たちまち見え、神に光榮を帰しつつイエズスに従いたりしが、民衆これを見て、こぞりて神に光榮を歸し奉れり。⁸

① テサロニケ前書5・17 ② ラテン訳では見出だすべきと思うか。 ③ ラテン訳では、すべて持てる物の。 ④ マテオ23・12、本書14・11 ⑤ 詩編21、イザヤ50・6、53、ダニエル9・26、ザカリア11・12、12・10、13・7 ⑥ ラテン訳ではむち打たれ。⑦ ラテン訳では神をあがめ。⑧ ラテン訳では神を贅美し。

第二十九章

ザケオのこと 1 イエズス、エリコに入りて歩み行き給うに、2 おりしもザケオと言

える人あり、すなわち税吏みつきとりの頭かしらにして、しかも富豪なりしが、3 イエズスの何人なるかを見んとすれど、丈低たけくして群衆のために見得ざりければ、4 見ゆるようとに前に走り行きて、桑葉くわはいぢくの木にのぼれり、そこをば通り給うべければなり。5 イエズスその所に至りて目をあげ、彼を見てのたまひけるは、ザケオ、急ぎおりよ、今日、われ汝の家に宿らざるべからず、と。6 彼急ぎおりて歓迎せしかば、7 衆人これを見て、イエズス、罪人の客となれり、とつぶやきければ、

8 8 ザケオ立ちて主に言ひけるは、主、見給え、われは財産の半ばを貧者に施し、もし人を損害せ
 9 しことあらば、償いに四倍をもつてせんとす、と。9 イエズスこれにのたまひけるは、この家、
 10 今日救いを得たり、そは、この人もアブラハムの子なればなり。10 けだし人の子の來りしは、滅
 びたる者を尋ねて救わんためなり、と。

11 金貨利用のたとえ 11人々これを聞きつつおりしに、イエズスこれに加えて一つのたとえを語
 り給えり、これ身は、すでにエルザレムに近く、また彼らが神の国ただちに現わるべしと思ひお
 れるをもつてなり。12 すなわちのたまひけるは、ある貴人きにん、遠國ほんこくへ行き、封國ほうこくを受けて帰らんと
 14-13 て、13 おのが家來けから十人を呼びて金十斤きん^{きん1}を渡し、わが来るまで商売せよ、と命じおきしが、14 国民
 彼を憎みければ、あとより使をやりて、われらは、かの人のわが王となることを否む、と言わせ
 15 たれど、15 彼、封國ほうこくを受けて帰り来り、かつて金きんを与えおきし家來けからが、おののおの商売して、いか
 16 ばかりのもうけありしかを知らんために、命じてこれを呼ばしめしが、16 初めの者來りて、主君
 17 よ、汝の金一斤は十斤をもうけたり、と言ひしに、17 主人言ひけるは、よし、良僕りょうばくよ、汝はわづ
 18 かのものに忠なりしがゆえに十とおの都會とおをつかさどるべし、と。18 次の者來りて、主君よ、汝の金
 一斤は五斤を生じたり、と言ひしに、19 主人言ひけるは、汝も五つの都會をつかさどれ、と。20
 21 また一人來りて、主君よ、これ汝の金一斤なり、われこれをふくさに包みおけり、21 そは汝がき
 びしき人にして、置かざるものを取り、まかざるもの刈るをもつてわれ汝を恐れたればなり、
 22 と言ひしに、22 主人言ひけるは、悪僕あくばくよ、われ汝をその口によりて裁かん、汝は、わがきびしき
 人にして、置かざるものを取り、まかざるもの刈るを知りたるに、23 何ぞ、わが金きんを銀行に渡

さざりしや、さらばわれ來りて、これを利とともに受け取りしならん、と。²⁴かくて立ち会える人々に向かい、彼より、その金一斤を取りて十斤を持てる者に与えよ、と言ひければ、²⁵彼ら、主君よ、彼はすでに十斤を持てり、と言ひしかど、²⁶われ汝らに告ぐ、すべて持てる人はなお与えられて余りあらん、されど持たぬ人は、その持てる物までも奪われん。²⁷さて、おのれらに、わが王たることを否みし敵どもをここに引き來りて、わが目の前に殺せ、「と言えり」と。²⁸かくのたまい終わりて、先立ちてエルザレムにのぼり行き給えり。

第四編 イエズスのご受難およびご復活

第一項 最後の一週間の初め

第一款 エルザレムにて歓迎せられ給う

歓迎の予備（マルコ11:11~14）²⁹かくて、かんらん山³⁰と言える山の麓³¹なるベトファゲとベタニアとに近づき給いしかば、弟子たちの二人を遣わさんとして、³⁰のたまいけるは、汝ら向こうの村に行け、さてこれに入らば、何人もいまだ乗らざるばの子のつながれたるに会わん、そを解きてここに引き来れ、³¹もし何ゆえにこれを解くぞと問う人あらば、主これを用いんと欲し給うと言え、と。³²遣わされたる人々行きて、のたまいしごとく小ろばの立てるに会い、³³これを解

34 くうちに、その主^{ぬし}ら、何ゆえに小ろばを解くぞ、と言うを、34 彼らは、主、これを要し給うなり、
 35 と書いて、35 イエズスのもとに引き來り、おのが衣服を小ろばにかけてイエズスを乗せたり。
 36 歓迎（マテオ²¹、ヨハネ¹¹、マルコ¹¹） 36 行き給う道すがら人々めんめんの衣服を道に敷きたりしが、
 37 すでにかんらん山の下り坂に近づき給う時、弟子たちの群衆こぞりて、かつて見しもろもろの
 奇跡に対して声高く神を贊美し始め、38 主のみ名によりて来れる王、祝せられよかし、天には平
 安、いと高き所には光榮あれ、と言ひければ、39 群衆のうちより、あるファリザイ人ライエズス
 に向かい、師よ、汝の弟子たちを戒めよ、と言ひしに、40 イエズスのたまいけるは、われ汝らに
 告ぐ、この人々黙せば石叫ぶべし、と。

エルザレムのために泣き給う 41 イエズス近づき給うや、町を見つつ、これがために泣きての
 たまいけるは、42 汝も、もし汝のこの日においてだも汝に平和を來すべきものの何なるかを知り
 たらば「幸いならんに」、今は汝の目より隠れたり。43 けだし日まさに汝に来らんとす、すなわ
 ち、その敵ども、墨^{モード}を汝のめぐりに築き、取り囲みつつ四方より迫り、44 汝と、その内にある子
 どもとを地に打ち倒し、汝には一つの石をも石の上に残さじ、そは汝が訪問せられし時を知らざ
 りしゆえなり、と。

殿内の商人追い出ださる 45 イエズス「神」殿に入り、その内にて売り買ひする人々を追い出
 だし始め給い、46さて、これにのたまいけるは、書きしるして「わが家は祈りの家なり」²とある
 に汝らはこれを盜賊の巣窟となせり、と。47 かくて日々「神」殿にて教えい給えるを、司祭長、
 律法學士^{*}および人民の重だちたる人々、殺さんとて企みいたれど、48 これをいかがすべきかを思

い得ざりき、そは人民、みなあこがれて、これに聞きいたればなり。

① 原文にはムナとあって計り目、またおよそ三十五円に当たる金額であった。 ② イザヤ 56・7、エレミア 7・11

第二款 イエズスとその敵

イエズスの権力の原因 (マテオ 11:21~27) 1 一日、イエズス〔神〕殿において人民を

教え福音を述べい給いけるに、司祭長^{*}、律法學士ら、長老らとともに、つどい來りてこれに向かい、2 われらに告げよ、汝は何の権をもって、これらのこととなすぞ、またこの権を汝に与えし者はたれぞ、と言いしかば、3 答えてのたまいけるは、われも一言、汝らに問わん、われに答えよ、4 ヨハネの洗礼は天よりせしか、人よりせしか、と。5 彼ら案じ合ひて、もし天よりと言わば、何ゆえにこれを信ぜざりしそ、と言われん、6 もし人よりと言わば、人民こぞりてヨハネの予言者たることを確信せるがゆえに、われらに石を投げ打たんとて、7 ついに、そのいづれよりせしかを知らず、と答えしかば、3 イエズス彼らにのたまいけるは、われもまた何の権をもって、このことどもをなすかを汝らに告げず、と。

ぶどう小作人^{こきにん}らのたとえ (マルコ 12:1~46) 9 さてイエズス人民に向かいてたとえを語り出だ

し給いけるは、ある人、ぶどう畑を作り、これを小作人に貸して久しく遠方におりしが、10 季節に至り、おのれにぶどう畑の実を納めしめんとて一人のしもべを小作人らのもとに遣わししに、彼らはこれを打ちて、むなしく帰せり。11 また他のしもべを遣わししに、これをも打ち、かつ、

いたく、はずかしめて、むなしく帰し、¹²なお第三の者を遣わししに、これをも傷つけて追い出だせり。¹³ここにおいて、ぶどう畠の主¹⁴いけるは、こはいかにすべき、われは、わが愛子を遣わさん、彼らこれを見ば、あるいは敬うならん、と。¹⁴小作人らこれを見るや、案じ合ひて、こは相続者なり、いざこれを殺さん、さすれば家督はわれらがものとなるべし、と言ひて、¹⁵ぶどう畠の外に追い出だして、これを殺せり。この時にあたりてぶどう畠の主¹⁶、いかに彼らを処分すべきか、¹⁶自ら來りて小作人らを滅ぼし、そのぶどう畠を他の人に渡すべきなり、と。司祭長らこれを聞きて、しかるべからず、と言ひしかば、¹⁷イエズス彼らを見つめてのたまひけるは、しかしらば書きしるして「建築者の捨てたる石は隅^{すみ}の親石となれり、¹⁸すべてこの石の上に落つる人は碎かれ、またこの石、たれの上に落つるも、これを微塵^{みじん}にせん³」とあるは何ぞや、と。¹⁹司祭長、律法學士ら、イエズスがおのれらをさしてこのたとえを語り給いしを悟りければ、即時に彼を取り押さんとせしかど、人民を恐れたり。

²⁰セザルに対する納稅（マルコ^{12:22}・マテオ^{13:15}・ルカ^{17:22}）²⁰かくて彼らは、事の様^{よう}をうかがいつつイエズスを総督の權威のもとに引き渡すべき言葉^{ことば}じちを取らしめんとて、おのれを義人に裝える間者^{かんじや}どもを遣わししに、²¹彼らイエズスに問ひて言ひけるは、師よ、われらは汝の語り、かつ教え給うところの正しくして、人をひいきせず、真理によりて神の道を教え給うことを知れり。²²さて、われらセザル⁴に税を納むるはよきやいなや、と。²³イエズス彼らの狡猾^{こうか}なるをおもんばかりてのたまひけるは、何ぞ、われを試むるや、²⁴デナリオ⁵をわれに示せ、これにある像^{ぞう}と銘^{めい}とは、たれのなるぞ、と。彼ら答えてセザルのなり、と言ひしに、²⁵のたまわく、しからばセザルのものはセザル

²⁶に返し、神のものは神に返せ、と。26彼らイエズスの言葉を人民の前にとがむることあたわず、

その答に感服して沈黙せり。

復活につきてのご答弁（マルコ^{12:22}・^{18:23}・^{27:33}）27また復活を否定せるサドカイ人、數人近づきて聞いて言ひけるは、28師よ、モイゼがわれらに書きおきしころによれば、人の兄弟、妻をめとりて死し、あとに子どもなき時は、その兄弟その妻をめとりて兄弟に子を得さすべきなり。⁶29さればここに兄弟七人ありしに、兄、妻をめとり子なくして死したれば、30その次なる者これをめとりしが、また子なくして死せしかば、31第三の者これをめとり、七人みな同じようにして子を残さずして死し、32最後に女もまた死せり、33しからば復活の時かの女は、彼らのうち、たれの妻たるべきか、そは七人これをめとりたればなり、と。34イエズス彼らにのたまひけるは、現世の子らはめとり嫁ぎすれども、35来世および復活に堪えたりとせらるべき人々は、嫁がずめとらざらん、36けだし、もはや死するあたわず、復活の子なれば天使に等しくして神の子どもなり。³⁷そもそも死者の復活することはモイゼ茨の編⁸に、主を「アブラハムの神、イザアクの神、ヤコブの神」と称してこれを示せり、38すなわち死者の神にはあらずして生者の神にてまします、そは人みなこれに生くればなり、と。39ある律法學士ら答えて、師よ、よくのたまえり、と言ひしが、40そののちは何ごとも、あえて問う者なかりき。

キリストはダヴィードの子なること（マルコ^{12:22}・^{41:41}・^{35:46}）41さて彼らにのたまひけるは、キリストをダヴィードの子なりと言ふは何ぞや。42すなわちダヴィード自ら詩編においていわく、「主わが主にのたまえらく、43われ汝の敵らを汝の足台となすまで、わが右に坐せよ」と、44ダヴィードす

にこれを主と称するに、彼いかでかその子ならんや、と。

律法學士をとがめ給う（マルコ12章1節～40節）⁴⁵ 人民みな聞ける中にてイエズス弟子たちにのたま
いけるは、⁴⁶ 律法學士らに用心せよ、彼らは、あえて長き衣を着て歩み、⁴⁷ 巷にては敬礼、会堂に
ては上座、宴会にては上席を好み、⁴⁷ 長き祈りを装いて寡婦^{やもめ}らの家を食いつくすなり、彼らは、
なお大いなる宣告を受くべし、と。

① 火曜日であった。 ② 衆議所の三団体。 ③ 詩編117章22節 ④ ロマ皇帝。 ⑤ およそ三十せんに当たる銀貨。 ⑥ 申命記
25章5節 ⑦ 世人の意。 ⑧ 聖書中、燃える炭のことを載せた所、すなわち出エジプト記3章1節～6節 ⑨ 詩編109章1節

寡婦のさいせん（マルコ12章41節～44節）¹ 1 イエズス曰をあげて、富める人々のさいせんをさい
せん箱に入るるを見、² また一人の貧しき寡婦^{やもめ}の二りんを入れるるを見て、³ のたまいけるは、われ
誠に汝らに告ぐ、かの貧しき寡婦^{やもめ}は、すべての人より多く入れたり。⁴ そは彼らはみな、その余
れるうちよりさいせんを入れたるに、かの女は、その乏しきうちより持てる暮しの代を、ことご
とく入れたればなり、と。

第三款 種々の予言

エルザレムの滅亡と世の終わりとに関する談話（マルコ13章1節～32節）⁵ ある人々、神殿が良き石
6 および献げ物にて飾られたることを語れるに、イエズスのたまいけるは、⁶ 汝らの見この品々、

ついには一つの石もくずれずして石の上に残らざる日來らん、と。

7 予言（マルコ13章4節～35節） 7 彼らまた聞いて、師よ、このことどもはいつあるべきぞ、その起ころん時には、いかなる印があるべき、と言いしに、8 イエズスのたまいけるは、汝ら、まどわされじと注意せよ、そは多くの人わが名を冒して來り、われなり、時は近し、と言うべければなり。されば彼らに従うことなかれ、9 また戦争反乱^{はんらん}ありと聞くとも恐ることなかれ、このことどもは、まずあるべしといえども、終わりはいまだ、ただちに来らざるなり、と。10 かくて彼らにのたまいけるは、民は民に、国は国に立ち逆らい、11 また所々に大地震、疫病^{えきびょう}、飢饉^{ききん}あり、天に凶変^{きゆうへん}あり、大いなる印あるべし。12 さて、このいっさいのことに先立ちて、人々わが名のために汝らに手をくだして汝らを迫害し、会堂に、監獄に渡し、王侯總督^{おうこうそうとく}の前に引かん、13 このことの汝らに起こるは証拠とならんためなり。14 されば汝ら覺悟して、いかに答えるかと、あらかじめおもんばかりことなけれ、15 そはわれ、汝らがすべての敵の言い防ぎ言い破ることあたわざるべき口と知恵とを汝らに与うべければなり。16 また汝らは、親、兄弟、親族、朋友^{ほうゆう}より売られ、そのうち、あるいは彼らに殺さるる者もあるべく、17 またわが名のために、すべての人に憎まれん。18 しかれども汝らの髪の毛の一すじだも失せじ。19 忍耐をもつて、その魂を保て。20 さてエルザレムが軍隊に取り囲まるるを見ば、その時その滅亡は近づきたりと知れ。21 その時ユデアにおける人は山にのがるべく、市中におる人は立ちのくべく、地方におる人は市中に入るべからず。22 これは、これ刑罰の日にして、書きしるされたること、すべて成就^{じょうじゅ}すべければなり。23 されど、その日にあたりて、はらめる人、乳を飲まする人は禍いなるかな、そは地上に大いなる悩みありて、怒りは、この民にのぞむべければなり。24 かくて人々は剣の刃^はに倒れ、捕虜^{ほりよ}となりて諸国に引か

26 われ、エルザレムは異邦人に踏みにじられ、諸国民の時満つるに至らん。25 また日、月、星に印現
 27 され、地上には海と波との鳴りとどろきて、もろもろの国民これがためにうろたえ、26 人々は全
 28 世界の上に起こらんとすることを予期して恐ろしさにやつれん、そは天^{てんじよ}上の能力震動すべければ
 29 なり。27 時に人の子^{*}が大いなる権力と威光^{いきうち}とをもつて雲に乗り来るを見ん。28 これらのこと起こ
 30 らば、仰ぎて頭^{こうべ}をあげよ、そは汝らの救わること近ければなり、と。29 イエズスまた彼らにた
 31 とえを語り給いけるは、いちじくおよび、すべての木を見よ、30 すでに、おのずから芽^めざせば、汝
 32 ら夏の近きを知る。31 かくのごとく、このことどもの起ころを見ば、神の国は近しと知れ。32 わ
 33 れ誠に汝らに告ぐ、このことの、みな成就^{じょうじゅ}するまで現代は過ぎざらん、33 天地は過ぎん、されど
 わが言葉は過ぎざるべし。

34 訓戒^{(マテオ13:24-36)(マルコ3:22-37)(ルカ5:1)} 34 自ら慎しめ、おそらくは汝らの心、放蕩^{ほうとう}、酔酊^{ゆいてい}、あるいは今生の心
 35 づかいのためににぶりて、かの日は思わず汝らの上に来らん、35 こは地の全面に住む人間いっさ
 いの上に、わなのごとく来るべければなり。36 されば汝ら、来るべきこのすべてのこととのがれ、
 36 人の子の前に立つに堪えたる者とせらるよう警戒して不斷に祈れ、と。

37 イエズス当分の所作^(ルカ10:1-12) 37 イエズス、昼は〔神〕殿にて教え、夜は出でてかんらん山^{さん}と言える山
 38 に宿りい給いしが、38 人民はこれに聞かんとて、朝早くより〔神〕殿の内において御もとに至り
 おりき。

①ラテン訳では顧みて。②ラテン訳では寒れば。

第二項 イエズスのご受難、ご死去、および葬り

第一款 敵らイエズスの死刑を計る

1 **衆議所の協議**（マルコ14章11節5行） 1さて過ぎ越しと称する種なしパンの祭日近づき
2 けるに、2司祭長、律法士ら、いかにしてかイエズスを殺すべきと相計りたれど、人民を恐れい
3 たり。

3 **ユダの裏切り**（マルコ14章10節14行） 3しかるにサタン^{*}、十二人の一人にしてイスカリオテとも呼
4 ばれたるユダに入りしかば、4彼行きて、司祭長、官吏らにイエズスを売る方法を語りしかば、
5 彼ら喜びて、これに金を与えると約せしに、6ユダ^{だく}諾して、群衆のおらざる時にイエズスを渡
さんものと、おりをうかがいいたり。

第二款 最終の晩さん

7 **過ぎ越しの備え**（マルコ16章12節17行） 7かくて過ぎ越し「の小羊」をほぶるべき種なしパンの日
8 来り、8イエズス、ペトロとヨハネとを遣わさんとして、汝ら行きて、われらが食せんため過ぎ
9 越しの備えをなせ、とのたまひしかば、9彼ら、いざこに備えんことを望み給うぞ、と言いし
10 に、10イエズスのたまひけるは、汝ら町に入る時、見よ、水^めを肩にせる人汝らに会わん、そ
11 の入る家に従い行きて、11その家の主に向かい、師、汝に言ひて、わが弟子とともに過ぎ越しの食

ほうむ

事をなすべき席はいざこにあるかとのたもう、と言え、¹²さらば彼、すでに整えたる大いなる高間^{たかま}¹を汝らに示さん、汝らそこで準備せよ、と。¹³彼ら行きて見るに、イエズスののたまいしどとくなりしかば、過ぎ越しの準備をなせり。

過ぎ越しの晩さん（マテオ¹⁴・マルコ¹⁷・ヨハネ²¹、²⁰マルコ²⁵）² 14時至りてイエズス、十二使徒とともに食につき給いしが、¹⁵彼らにのたまいけるは、われ苦しみを受くる前に、この過ぎ越しの食事を汝らとともにせんことを、せつに望めり、¹⁶けだし、われ汝らに告ぐ、そが神の国にて成就するまでは、われ今よりこれを食せざるべし、と。

聖体の制定（マルコ¹⁴・²⁶マルコ²²、²⁶ヨハネ²⁵）³ 17やがて杯を取り、謝してのたまいけるは、取りて汝らのうちに分かて、¹⁸けだし、われ汝らに告ぐ、神の國の来るまでは、われぶどうの汁を飲まじ、と。¹⁹またパンを取り、謝してこれを裂き、彼らに与えつつのたまいけるは、これ汝らのために渡さるわが体なり、わが記念としてこれを行なえ、と。²⁰晩さん終わりてのち、杯をもまた、かくのごとくにしてのたまいけるは、この杯は汝らのために流さるべきわが血における新約なり。

謀叛人示さる（マテオ¹⁸・マルコ²¹、²⁵ヨハネ¹³・¹⁸マルコ³⁰）⁴ 21さりながら見よ、われを渡す人の手われとともに食卓にあり。²²そもそも人の子は予定せられしどくにして逝くといえども、これを渡す人は禍いなるかな、と。²³かくて弟子たち、おのれらのうちにおいてこれをなさんとする者はたれなるぞ、と互いに詮議し始めたり。

使徒たちの争論 24しかるに、おのれらのうち大いなりと見ゆべき者はたれぞ、との争い起とりしかば、²⁵イエズス彼らにのたまいけるは、異邦人の帝王は人をつかさどり、また人の上に権をと

26 る者は恩人と称せらる、²⁶されど汝らはしかあるべからず、かえつて汝らのうちに大いなる者は小
 27 さき者のごとくになり、頭かしらたる者は給仕のごとくになるべし。²⁷けだし食卓につける者と給仕する
 者とはいづれか大いなるぞ、食卓につける者ならずや、しかれどもわが汝らのうちにあるは給仕
 する者のごとし。²⁸汝らはわが患難のうちにおいて絶えずわれに伴いし者なれば、²⁹わが父のわ
 れに備え給いしごとく、われも汝らのために國を備えんとす、³⁰これ汝らをして、わが國においてわが食卓に飲食せしめ、また高座に坐してイスラエルの十二族を審判しんばんせしめんためなり。と。
 ペトロのつまづきを予言し給う（マテオ²⁶、ヨハネ³⁰、マルコ³⁵、マルコ³⁶、マタイ¹⁴）^{*} ³¹主またのたまいけるは、シモン、
 32 シモン、見よ、麦のごとくふるわんとてサタン汝らを求めたり、³³されど、われ汝のために汝が
 33 信仰の絶えざらんことを祈れり、汝いつか立ち帰りて汝の兄弟らを固めよ、と。³⁴彼、イエズスの
 34 に向かい、主よ、われ汝とともに監獄にも死にも至らん覺悟なり、と言ひしかば、³⁵イエズスの
 35 たまいけるは、ペトロ、われ汝に告ぐ、今日、鶴歌とわどりわざるうち汝三たびわれを知らずと否まん、
 36 汝らに何の不足がありし、と。³⁶彼ら、なかりき、と言ひしかば、のたまいけるは、さりながら
 37 今は、財布ある者はこれを携え、袋をもまたしかせよ、なき者は、おのが上着を売りて剣つるぎを買え、
 37 けだし、われ汝らに告ぐ、書きしるして「彼は罪人ざいじんに列せられたり」とあるも、またわれにお
 いて成就じょうじゅせざるべからず、そはおよそわれに關するところ、まさに終わらんとすればなり、と。
 38 弟子たち、主よ、見給え、ここに二二ふりの劍あり、と言ひしかば、イエズス、足れり、とのた
 まえり。

第三款 ゲッセマニにおけるイエズス

39 ゲッセマニにおけるイエズスの心痛（マテオ14:26・マルコ14:32-36・ヨハネ14:32-46） 39さて出でて例のごとく、かんらん山へ行き給うに、弟子たちもこれに従いしが、40所に至り給うや彼らに向かいて、汝ら誘惑に入らざらんために祈れ、とのたまい、41自らは石の投げらるるほどを彼らより引き離れてひざまずき、42祈りて、42のたまいけるは、父よ、おぼしめしならば、この杯さかずきをわれより取り除き給え、さりながら、わが心のままにはあらで、おぼしめしなれかし、と。43時に一人の天使、天より現われて力を添えしが、イエズス死ぬばかり苦しみて、祈り給うこといよいよせつに、44汗は土の上にしだたりて血のしずくのごとくなれり。45かくて祈りより立ち上がりて弟子たちのもとに来給いしが、彼らが憂いのために眠れるを見て、46のたまいけるは、何ぞ眠れるや、起きよ、誘惑に入らざらんために祈れ、と。

第四款 イエズス捕えられ給う

47 イエズスの就縛（マテオ26:43-52・ヨハネ18:1-11） 47なお語り給えるうちに、おりしも一団の群衆來りしが、十二人の一人なるユダと言える者先立ちおり、イエズスに接吻せんとて近づきしかば、48イエズスこれにのたまいけるは、ユダ、接吻をもつて人の子を渡すか、と。49かくてイエズスの

まわりにいたる人々、事の成り行きを見て、主よ、われら劍つるぎをもつて擊うたばいかに、と言いつつ、
 50 その一人、大司祭のしもべを擊ちて、その右の耳を切り落とせり。51 イエズス答えて、汝らこ
 れまでにて許せ、とのたまい、彼の耳に触れて、これをいやし給えり。52 さて、おのれに近づけ
 る司祭長*、神殿の司つかさ長老*らにのたまひけるは、汝らは強盜に向かうごとく劍と棒とを持ちて出
 53 で來りしが、53 われ日々汝らとともに神殿にありしに、汝らわれに手をかけざりき。しかれども
 今は汝らの時なり、暗闇の勢いなり、と。

54 ペトロ、イエズスを否む(マテオ26・66、72・57、ヨハネ18・15、マルコ14・25) 54 彼ライエズスを捕えて大司
 祭の家に引き行きしかば、ペトロ、はるかに従ひたりしが、55 彼ら庭の真まんなか中に炭火すみひをたきて、そ
 のまわりに坐せるに、ペトロもその中に坐したりき。56 一人の下女げじょ、彼が火明りに坐せるを見
 57 て、これを見つめ、この人も彼とともにありき、と言ひければ、57 ペトロ、イエズスを否みて、
 女よ、われ彼を知らず、と言えり。58 しばらくありて、また一人の男、ペトロを見て、汝も彼ら
 の一人なり、と言ひしに、ペトロ、人よ、われはしからず、と言えり。59 およそ一時間を経て、
 60 また一人言い張りて、げにこの人も彼に伴ひたりき、これもガリレア人なれば、と言ひしに、
 ペトロは、人よ、われ汝の言うところを知らず、と言ひしが、いまだ言い終わらざるに鷄にわとりたちま
 ち歌えり。61 この時、主、振り返りてペトロを見給いしかば、ペトロは、鷄歌わぬ前に汝三たび
 われを否まん、とのたまひたりし主の御言葉を思い起し、62 外に出でていたく泣き出だせり。
 63 イエズスはずかしめられ給う(マテオ26・68、マルコ14・65) 63 守れる人々、イエズスを打ちてあざ笑い、64
 御目をおおいて御顔を打ち、さて聞いて、予言せよ、汝を打てるはたれなるぞ、と言い、65 な

おこれに向かい冒瀆^{ぼうとく}して、そのままのことと言いたり。

死罪を言い渡され給う（マルコ15章1節） 66 夜の明くるとともに、民間の長老^{*}、司祭長^{*}、律法學士^{*}ら相集まり、イエズスをその衆議所に引きて、汝はキリストなるか、われらに告げよ、と言ひしかば、67 イエズス彼らにのたまひけるは、われ汝方に告ぐとも汝らわれを信せじ、68 また、われ問うとも、われに答えず、またわれを放たじ、69 されども今よりのち人の子^{*}は全能にまします神の右に坐しおらん、と。みな言ひけるは、しかば汝は神の子なるか、と。70 イエズス、汝らの言えるがごとし、われはそれなり、とのたまいしかば、71 彼ら言ひけるは、われら何ぞなお証拠を要せんや、自ら、その口より聞けるものを、と。

①ラテン訳では食堂。②詩編40・9 ③イザヤ53・12

第五款 イエズス、ピラト前に出廷^{しゅうてい}し給う

イエズス、ピラトに渡され給う（マルコ15章5節、ヨハネ18章28節） 1 かくて群衆一同に立ち上がりてイエズスをピラトのもとに引き行き、2 これを訴えて言い出だしけるは、われら、この人のわが国民をまどわし、セザルに税を納むることを禁じ、おのれを王たるキリストなりと言えるを認めたり、と。3 ピラト、イエズスに聞いて、汝はユデア人の王なるか、と言いしかば、答えて、汝の言えるがごとし、とのたまえり。4 ピラト、司祭長らと群衆とに向かい、われは、5 この人に罪を認めず、と言ひしかど、5 彼らますます言い張りて、彼はガリレアを初め、この地

6 に至るまでユダヤの全国に教えつつ人民を煽動^{せんどう}す、と言えり。6 ピラト、ガリレアと聞きて、こ
7 の人はガリレア人なるかと問ひ、7 そのヘロデが權下の者なるを知るや、彼も當時エルザレムに
おりければ、イエズスをヘロデのもとに送れり。

8 ヘロデにあざけられ給う 8 ヘロデはイエズスを見て大いに喜べり、これかつて彼につきて多く聞くところありて、久しくこれに会わんことを願い、彼によりて行なわるる不思議を見んことを望みいたればなり。9 かくて多くの言葉をもつて問い合わせしかど、イエズス何をも答え給わず、10 司祭長^{*}、律法學士^{*}ら、かたわらに立ちて、しきりにこれを訴えければ、11 ヘロデその兵士らとともに侮辱^{ごじょく}を加え、白き衣服¹を着せて、これをなぶり、ついにピラトに送り返せり。12 ヘロデとピラトとは、かつて相讐敵^{あいしゆうてき}たりしが、この日よりして朋友^{ほうゆう}となれり。

更にピラトの前に出廷し給う 13 ピラト、司祭長と官吏と人民とを呼び集めて、14 言いけるは、汝ら、この人を人民をまどわす者として、われに差し出だせり。しかれども見よ、われこれを汝らの前に審問^{じんもん}すれども、汝らの訴うる諸件^{じょけん}につきては少しもこれに罪を見出ださず、15 ヘロデもまたしかり、すなわち、われ汝らを彼のもとに差しまわしたりしに、死に当たるべき何らの処分もなかりしなり、16 ゆえに、われ懲らして、これを許さんとす、と。

17 バラバ、イエズスより先にせらる(マテオ^{27:6}、ヨハネ^{15:15}、マルコ^{23:15}、³⁹⁴⁰) 17さて祭日にあたりては一人を人民に許さざるを得ざりければ、18 群衆一同に叫びて、この人を除きて、われらにバラバを許せ、と言えり。19 バラバとは市中に起こりし一揆^{いつき}と人殺しとのために監獄に入れられたる者なり。20 ピラトは、イエズスを許さんと欲して、再び彼らに語りしかども、21 彼らまたまた叫びて、これ

22 を十字架につけよ、十字架につけよ、と言いたり。22 ピラト三たび目に彼らに向かいて、この人、何の悪事をかなしたる、われは少しも死罪を認めざれば懲らしてこれを許さんとす、と言ひたるに、23 彼ら声高く、しきりに十字架につけんことを求め、その声いよいよ激しければ、24 ピラト彼らの求めに応ぜんと決し、25 その求むるままに、かの人殺しと一揆とのために監獄に入れられたる者を許し、イエズスをば彼らの意に任せたり。

第六款 十字架上の犠牲

26 十字架の道行き（マテオ²⁷、ヨハネ³¹、マルコ¹⁵） 26 彼ライエズスを引き行く時、田舎^{いなか}²より来かかれ
るシモンと言えるシレネ人を捕え、しいてイエズスのあとにつきて十字架になわせたり。27 さて、おびただしき人民およびイエズスの御身の上を泣きかこてる婦人ら、そのあとに従いければ、28 イエズスこれらを顧みてのたまいかけるは、エルザレムの娘らよ、わが身の上を泣くことなけれ、
おのれと、おのが子どもの身の上を泣け。29 見よ、日はまさに来らんとす、その時人々は言わ
ん、石女^{うまづめ}なる者、いまだ生まざる腹、いまだ飲ませざる乳房^{ちぶき}は幸いなり、と。30 その時また山に
向かいては、われらの上に落ちよと言い、岡に向かいては、われらをおおえと言い出ださん。31
けだし生木^{なまき}すら、かくせらるれば、枯木は、いかにかせらるべき、と。

32 十字架につけられ給う（マテオ²⁷、ヨハネ³⁵、マルコ¹⁸） 32 さて二人の罪人、殺さるべきにてイエズスと
ともに引かれつつありしが、33 （されこうべ）カルヴァリオと言える所に至りてイエズスを十字

架につけ、かの強盜をも、一人は右に、一人は左に、はりつけにしたり。

衣服分けらる（マテオ27・ヨハネ19・マルコ15） 34 かくてイエズスは、父よ、彼らはなすところを知らざる者なれば、これを許し給え、とのたまいけるに、彼らはイエズスの衣服を分かちて、くじ取りにせり。

冒瀆せられ給う（マルコ15・29・39・32・42） 35 人民は立ちて眺めいたりしが、頭かしらどもは彼らとともにイエズスをあざけりて、彼は他人を救えり、はたして神より選まれたるキリストならば、おのれを救うべし、と言い、36 兵卒らもまた、これをあざけりつつ近づきて酢サクを差し出だし、37 汝もしユダ人の王ならばおのれを救え、と言いたり。

罪札（マテオ27・ヨハネ19・マルコ15） 38 イエズスの上には、ギリシア、ラテンおよびヘブレオの文字にて書きたる罪札ありて、「これユダ人の王なり」とありき。

強盜の改心 39 かの、つられたる強盜のうち一人は冒瀆して、汝キリストならば、おのれとわれらとを救え、と言えるに、40 一人は答えてこれをとがめ、汝は同じ刑罰を受けながら、なお神を恐れざるか、41 われらはおのが仕業しゃぎに当たる報いを受くるものなれば当然なれども、この人は何の悪をもなしたことなし、と書いて、42 またイエズスに向かい、主よ、み国に至り給わん時われを記憶し給え、と言ひければ、43 イエズスのたまいけるは、われ誠に汝に告ぐ、今日汝われとともに樂園らくえんにあるべし、と。

イエズスのご死去（マテオ27・ヨハネ19・マルコ15） 44 時はほとんど十一時3なりしが、三時に至るまで地上あまねく暗闇となり、45 日暗みて、神殿の幕、中より裂けたり。46 イエズス声高く呼ばわ

りて、父よ、わが靈をみ手に託し奉る、とのたまひしが、かくのたまひつつ息絶え給えり。
その目撃者(マルコ15章27節51~56)
 47百夫長、事の顛末を見て神に光榮を歸し、げにこの人は義人なりき、といしが、48この慘状に立ち会いて、事の次第を見たる群衆もみな、おのが胸を打ちつつ帰りたり。49されどイエズスの知人、およびガリレアより従いたりし婦人たちは、はるかに立ちて事の様を眺めいたり。

イエズスの葬り(マテオ27章42節47~57節61節ヨハネ19章38節マルコ15章42節15)
 50おりしも議員の一人にユデアの町なるアリマテアのヨゼフと名づくる人あり、正しき善人にして、51彼らの決議および処分に同意せず、おのれも神の國を待ちおりしが、52ピラトのもとに至りてイエズスの御屍おんしかばねを求め、53取りおろして布に包み、石を掘りうがちて作りたる墓の、いまだ、たれをも葬りしことなきに収めたり。54あたかも用意日にして安息日あかつきの曉あかつきなりしが、55ガリレアよりイエズスに伴い來りし婦人ら、あとに従いかど、安息日の間は捷に従いて休めり。

①あるいは、はでな。②ラテン訳では田舎家。③原文には六時。④原文には九時。⑤金曜日。⑥土曜日。

第三項 イエズスのご復活

墓における婦人(マテオ28章1節ヨハネ20章1節)
 1 安息日の明くる日、婦人たち支度せし香料を携えて朝早く墓に至り、2 墓より石の転ばしのけられたるを見て、3 内に入りけるに、主



4 イエズスの御屍見當たらざりしかば、4 これに当惑したりしが、^{どうわく}³

5 天使現わる（マルコ^{16章2節}）おりしも輝ける衣服を着けたる一人の男、彼らのかたわらに立
てり。5 彼ら恐れてうつむきたるに、その二人言ひけるは、何ぞ生者を死者のうちに尋ねるや、
6 彼はここにいまさず、復活し給えり。思い出だせ、いまだガリレアに居給いし時、いかに汝ら
7 に語り給いしかを。7 すなわち、人の子は必ず罪人^{*}の手に渡され、十字架につけられ、三日目に
復活すべし、とのたまいしなり、と。

8 婦人、使徒に告ぐ（マルコ^{16章8節}）8 婦人たち、この御言葉を思い出だし、9 墓より帰りて、い
つさいのことを十一使徒および他の人々に告げたり。10 使徒たちに告げしは、マグダレナ・マリ
アとヨハンナとヤコボの母マリアおよび伴える他の婦人たちなりしが、11 その言葉、たわ言⁵のよ
うにおぼえて使徒たちはこれを信ぜざりき。12 されどペトロは立ちて墓に走り行き、身をかがめ
て、ただ布のみ置かれたるを見しかば、ありし次第を心に怪しみつつ去れり。

13 イエズス、エンマウスに行く二人の弟子に現われ給う（マルコ^{12章16節}）13 さて同じ日に弟子の二人、
14 エルザレムより、およそ三里⁵を隔てたるエンマウスと名づくる村に行く道すがら、14 この起こう
たるすべてのことを語り合ひいたりしが、15 かく語り合ひて詮議しつつあるほどに、イエズス御
16 自らも近づきて彼らに伴いい給えり。16 されど彼らの目は、これを認めざるようおおわれてあり
17 き。17 かくて彼らに向かい、汝らが歩みながら語り合いつつ悲しめるは何の物語ぞ、とのたまい
18 しかば、18 名をクレオファと言える一人答えて言ひけるは、汝は一人、エルザレムにおける旅人^{19節}
にして、このごろかしこに起こうりしことを知らざるか、と。19 イエズス、何ごとぞ、とのたまい

しに、彼ら言ひけるは、ナザレトのイエズスのことなり、彼は予言者にして、言行ともに神と一緒に、般の人民と対して勢力ありしが、²⁰わが大司祭および頭かしらたちは、これに死罪を言い渡して十字架につけたる次第なり。²¹われらは彼こそイスラエルを贖うべき者なれと待ち設けいたりしが、これらのことありてより今日は、はや三日目なり。²²さて、われらのうちのある婦人らもまた、わかれらを驚かせり、すなわち彼ら未明みめいに墓に至りしに、²³イエズスの御屍おじしかばね見当たらず、しかも天使たちの現われて、彼は生き給えりと告ぐるを見たり、と言いつつ来れり、²⁴かくて、われらのうちより、ある人々墓に行きしに、婦人らの言いしごとくなるを見しも彼をば見つけざりき、と。²⁵イエズス彼らにのたまひけるは、ああ愚かにして予言者たちの語りしすべてのことを信するに心にふき者よ、²⁶キリストはこれらの苦しみを受けて、しかして、おのが光榮に入るべき者ならざりしか、と。²⁷かくてモイゼおよびモロモロの予言者を初め、すべての聖書につきて、おのれに関するところを彼らに説明しい給いしが、²⁸彼らその行く所の村に近づきし時、イエズス行き過ぎるとするものごとくにし給えるを、²⁹彼らしくて、日すでに傾きて暮れんとすれば、われらとともに留まり給え、と言いしかば、ともに入り給えり。³⁰かくてともに食卓につき給えるに、パンを取りてこれを祝し、裂きて彼らに授け給いければ、³¹彼らの目開けてイエズスを見知りしが、たちまちにして、その目より消え給えり。³²彼ら語り合いけるは、道すがら語りつつ聖書をわかれらに説き明かし給える間、わかれらの心は胸のうちに熱したりしにあらずや、と。³³時を移さず立ち上がりてエルザレムに帰れば、十一使徒および伴える人々すでに集まりて、³⁴主、げに復活してシモンに現われ給いたり、と言いおれるに会い、³⁵おのれらもまた途中にて起こりしこと、お

よびパンを裂き給いし時に主を認めし次第を語れり。

使徒たちに現われ給う（マルコ^{16・14}、ヨハネ^{20・19}、²⁵）³⁶これらのこととを語るほどにイエズスその真中に立ちて、汝ら安かれ、われなるぞ、恐ることなかれ、とのたまいかれば、³⁷彼ら驚き恐れて幽靈を見たりと思えるを、³⁸イエズスのたまいけるは、汝ら何ぞ取り乱して心にさまざまの思いを起ことすや。³⁹わが手わが足を見よ、すなわちわれ自身なり、なで試みよ、幽靈^{ゆうれい}は汝らがわれにおいて見ることき骨肉^{こうにく}あるものにあらず、⁴⁰とのたまひて手足を彼らに示し給えり。⁴¹彼ら喜びのあまりに驚嘆しつつもなお信ぜざりければ、イエズス、ここに食すべきものありや、とのたまひ、⁴²彼ら焼き魚の一切れと一房の蜂蜜とを呈したるに、⁴³彼らの前にて食し給い、残りを取りて彼らに与え給えり。⁴⁴さて彼らにのたまひけるは、これ、わがいまだ汝らとともにありし時に、モイゼ^{*}の律法^{*}と予言者たちの書と詩編とに、われに關して書きしるしたることは、ことごとく成就せざるべからず、と汝に語りしことなり、と。⁴⁵ここにおいて聖書を悟らしめんために彼らの精神を開きてのたまひけるは、⁴⁶書きしるされたるところ、かくのことく、またキリストは苦しみを受けて死者のうちより三日目に復活すること、かくのことくなるべかりき。⁴⁷また改心と罪の許しあとは、エルザレムを初め、すべての国民に、その名によりて述べ伝えられざるべからず、⁴⁸汝らは、これらのことの証人なり。⁴⁹われは父の約し給えるものを汝らに遣わさんとす、汝ら天よりの能力を着せらるるまで市中に留まれ、と。

ご昇天（マルコ^{16・19}、²⁰、¹³）⁵⁰イエズスついに彼らをペタニアに伴い、手あげてこれを祝し給いしが、⁵¹祝しつつ彼らを離れて天にあげられ給いぬ。⁵²彼らこれを拝し奉り、大いなる喜びを

もつてエルザレムに帰りしが、⁵³それより常に「神」殿にありて、神を讃美し、かつ祝し奉りつ
つありき、アメン。

①日曜日。②入口をふさいだ石。③ラテン訳では驚きたりしが。④天使。⑤原文には六十スタジオとあって、スタジオは約二百メートルに当たる。⑥聖靈の意。⑦ロマ書13・14、コリント前書15・54、ガラティア書3・27 ⑧使徒行録2・46、3・1、5・21、24